

glafit®



HYBRID BIKE
GFR 02

取扱説明書

▲ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

glafit



glafit®

移動を、タノシメ!

glafitは、移動を、ただそれだけでは終わらせない ——。

移動することは、本来楽しくて、面白くて、うれしいこと
だったはず。

私たち glafit (グラフィット) は、ユーザーの「乗りたい!」を
カタチとして創造する企業です。

glafit が作った「HYBRID BIKE GFR」や「X-SCOOTER LOM」
は 100%電動で、モーター駆動。

glafit の製品に乗ると、ガソリンエンジンで走っていた時には
聞こえなかった鳥のさえずりや川の音が聴こえて、走り慣れ
たいつもの道がまったく違う体験になるんです。

移動がつまらない?

それなら、私たちの製品で、あなたの日常をアップデート
しませんか?

人々の生活に FIT する新しい移動体験を届ける。

それが glafit の使命です。



はじめに

HYBRID BIKE GFR-02をご購入いただき、まことにありがとうございます。

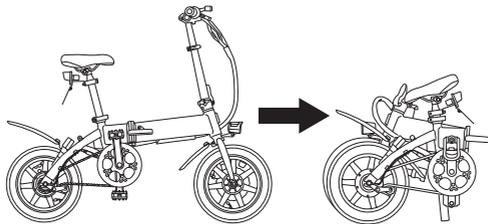
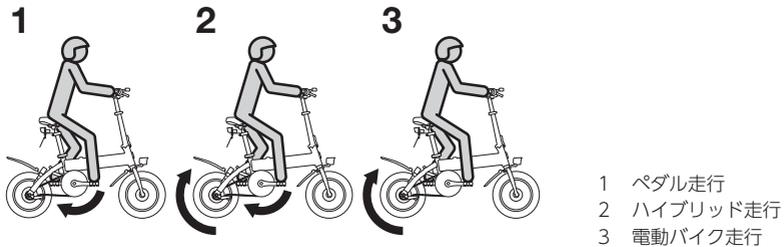
取扱説明書をよくお読みの上、安全に正しくお使いください。

- 当製品は、予告なく仕様、デザインを変更する場合がありますので、一部実車と異なる場合があります。

特徴

当製品は、「ペダルを漕いで走行」、「ペダルを漕ぐ力をモーターでアシストして走行」、そして「モーターの力だけで走行」と状況に応じて3種類の乗り方を選べます。また、持ち運びや収納する際に折り畳むことも可能です。

当製品は原動機付自転車（原付）に該当するため、使用時は自転車～バイク（ECO・MID・HIGH）どのモードでも電源をONにする必要があります。**電源がOFFの状態での使用は認められておりません。**



当製品は、ペダルが装着されていることから一般的な自転車と同様に思われますが、当製品は原付バイク（原動機付自転車）です。

くれぐれも自転車ではなく、バイクとご理解ください。**運転時には免許証の携帯、ヘルメットの着用、自賠責保険証書の携帯が義務付けられています。**

安全に関する表示

運転される方、その周囲の他の方々への傷害や、財産の損害を未然に防止するため、安全に関する下記の表示をしています。

表示の内容をよくご理解のうえ、取扱説明書をお読みください。



この表示の内容に従わないと、人の死亡もしくは重傷を負う可能性が高いことを意味しています。



この表示の内容に従わないと、人の死亡もしくは重傷を負う可能性があることを意味しています。



この表示の内容を無視し、誤った使い方をすると人が傷害を負ったり、物的損害が発生する危険性があることを意味しています。



正しい使い方のポイントを示しています。

目次

安全のために	4
製品の確認	6
各部の名称	7
最初に運転するとき	12
各部の操作	16
運転前点検	43
運転	47
車両の折り畳み・組み立て	54
点検・整備	63
トラブルシューティング	70
運搬・保管・廃棄	72
車両情報	75
索引	77
お問い合わせ	79

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

安全のために

1

ここでは特に守っていただきたいことや、知っておいていただきたいことを記載しています。以下の内容をよく読み運転してください。

運転免許が必要です

当製品は、道路運送車両法では第一種原動機付自転車（原付）です。運転する際は、原付（原付一種）以上の運転免許又は、普通自動車免許以上の運転免許が必要です。

- ナンバー登録及び取り付けが必要です。
- 自動車損害賠償責任保険（自賠責保険）へ加入が必要です。

ヘルメットの着用は義務です

- 運転する際は、ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。
- ヘルメットはサイズに合った、適切なものを着用してください。
- ヘルメット着用時は、あごひもをしっかりと締めてください。
- ゴーグルやヘルメット・シールド等は、視界を妨げない範囲で装着し、眼の保護をしてください。
- 二輪車用で、安全基準を満たしている SG マーク、PSC マークもしくは JIS マークのあるヘルメットの着用を推奨します。

安全な服装で運転をしてください

- 体の露出が少ない長そで、長ズボンを着用してください。
- 肩、肘、膝などへのプロテクターの装着を推奨します。
- 滑りにくい革製グローブの着用を推奨します。

警告

- チェーンへの巻き込みを防ぐため、裾の広いズボン、長いスカート等は着用しないでください。
- 長いマフラーは、車輪やチェーンに巻き込まれてしまう可能性があるため、着用しないでください。
- ブレーキランプ、ウィンカー、ナンバープレートは、常に見える状態にする必要があります。コート等丈の長い衣服を着用する際は、衣服がブレーキランプ、ウィンカー、ナンバープレートを隠さないように注意してください。
- ヒールなどかかとの高い靴を着用しないでください。
- サングルやすべりやすい靴は、足がペダルからはずれ、転倒するおそれがありますので着用しないでください。

運転する際は以下を順守してください

- 原動機付自転車に求められる道路交通法上のルールと交通マナーを守り走行してください。
- 本製品は、一般の道路環境での適切な使用を想定しています。2人乗、競争、重量物の積載、凹凸面・段差の激しい路面・障害物のある場所などでの運転や危険な使用はしないでください。
- ハンドルを両手でしっかりと握ってください。片手運転はしないでください。
- 運転中はスマートフォン等携帯電話を見たり、操作しないでください。法律で禁止されています。スマートフォンホルダー等を使用した場合でも、必ず安全な場所で停車してから確認や操作をしてください。
- 傘をさしながらの運転はしないでください。法律で禁止されています。
- 両足はペダルにしっかりと乗せてください。
- 急発進、急ブレーキ、急なハンドル操作といった急激な操作はしないでください。たいへん危険です。
- 車道を走行してください。自転車が走行可能な歩道でも走行できません。
- 歩行者を第一優先で、周囲に対し配慮した運転をしてください。また他の車両への安全に配慮した運転を心がけてください。

雨天の運転

- HYBRID BIKE GFR-02 は完全防水ではありません。
- 雨の降り方や雨天時の車両の使い方により、故障する可能性があります。
- 水たまりを避けて走行してください。
- やむを得ず水たまりを走行する際は、十分減速し、歩行者等の周囲に水が跳ねないように気を付けてください。

転倒による事故を防ぐために

- 雨、風、雪の激しい時は運転しないでください。ブレーキが利かず、スリップにより転倒しケガのおそれがあります。
- 滑りやすい路面（濡れたり凍結している道、水たまりや積雪など）では運転しないでください。スリップにより、転倒しケガのおそれがあります。
- 路面状態の悪い所や段差の激しい所を運転しないでください。

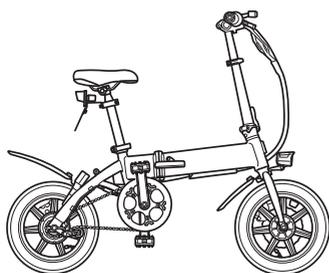
製品の確認

製品がお手元に届きましたら、下記のものが過不足無いことをご確認ください。
内容に問題がありましたら取扱店にご連絡ください。

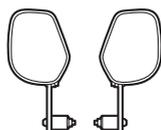
2

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 1 本体 | 7 バッテリーキー (2本) |
| 2 サイドミラーセット | 8 バッテリー |
| 3 六角レンチ | 9 バッテリー充電器 |
| 4 証明書携帯用ケース
(自賠責保険証明書入れ) | 10 保証書 |
| 5 固定ベルト | 11 取扱説明書 |
| 6 YubiLock® 解錠キー (2本) | 12 バッテリー取扱説明書 |
| | 13 バッテリー充電器警告 |

1



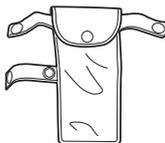
2



3



4



5



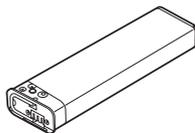
6



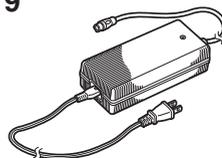
7



8



9



10



11



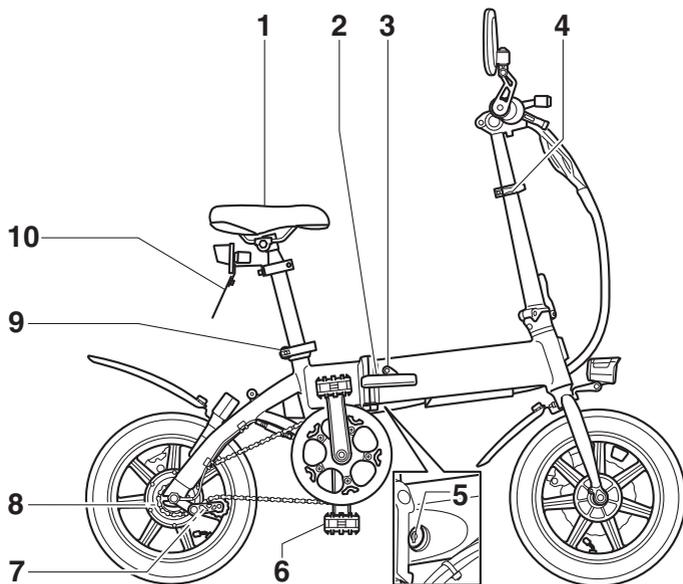
12



13



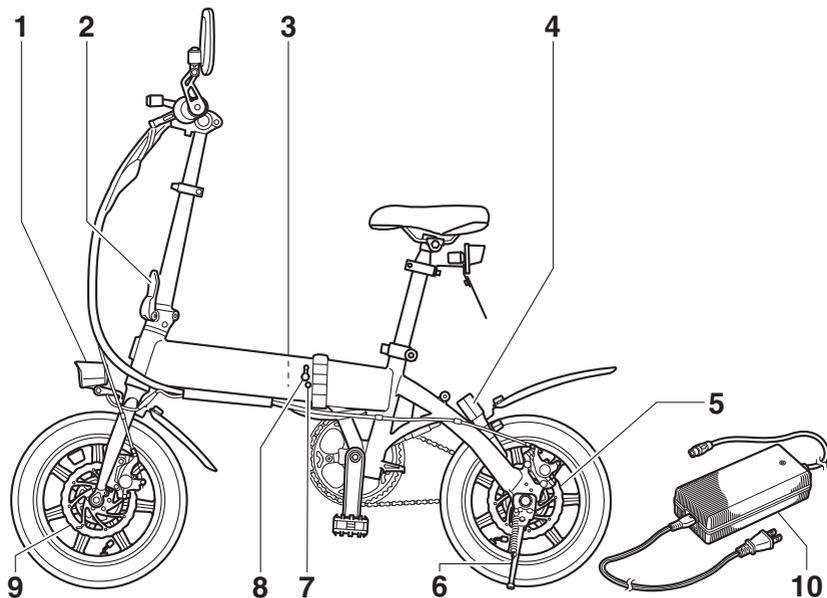
右側面



- 1 シート
- 2 フレームロックレバー
- 3 フレームロック
- 4 ハンドル高さ調整レバー
- 5 バッテリーキー差込口
- 6 ペダル
- 7 チェーンテンショナー
- 8 モーター
- 9 シートポストクランプ
- 10 ナンバープレートステー

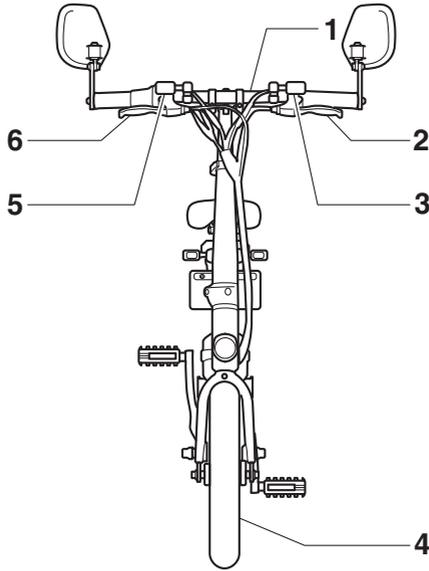
各部の名称

左側面



- 1 ヘッドライト／ホーン（ヘッドライト内部）
- 2 ハンドル折畳レバー
- 3 バッテリー（内蔵）
- 4 YubiLock®（指紋認証鍵）
- 5 後輪ディスクブレーキ
- 6 スタンド
- 7 バッテリーロック
- 8 充電口
- 9 前輪ディスクブレーキ
- 10 バッテリー充電器

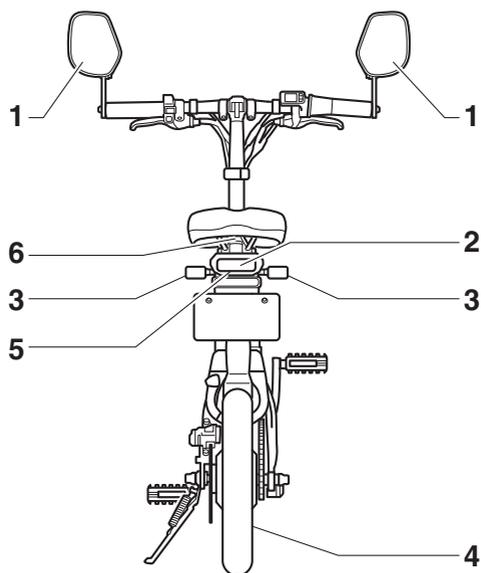
前面



- 1 ハンドル
- 2 後輪ブレーキレバー (左)
- 3 前ウインカー (左)
- 4 前輪タイヤ
- 5 前ウインカー (右)
- 6 前輪ブレーキレバー (右)

各部の名称

後面

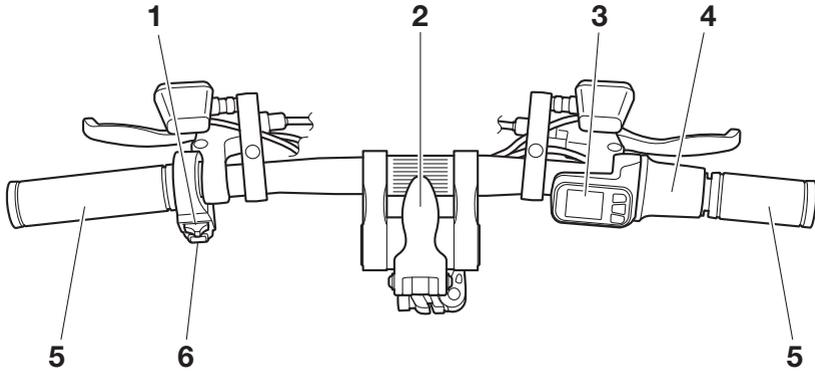


- 1 サイドミラー
- 2 テールランプ
- 3 後ウィンカー
- 4 後輪タイヤ
- 5 ナンバーライト (白色 LED)
- 6 証明書携行用ケース

各部の名称

3

ハンドル



- 1 ウィンカースイッチ
- 2 ハンドル固定レバー
- 3 スロットルメーター（インフォメーション・ディスプレイ部）
- 4 スロットル
- 5 グリップ
- 6 ホーンボタン

最初に運転するとき

当製品は原付です。運転する場合には事前にナンバーの登録と取り付け、自賠責保険の加入が必要です。また、運転するときにはヘルメットの着用、運転免許証の携帯も法律で義務付けられています。車両を安全に運転するために、以下の内容を必ず行ってください。

4

メモ

ナンバープレートの登録、自賠責保険の加入の詳細については、ヘルプセンターを参照してください。

ヘルプセンター：
<https://support.glafit.com/hc/ja>

ナンバープレートの登録

各自治体でナンバープレート登録の手続きをして、ナンバープレートを取得してください。

注意

当製品は「第一種原動機付自転車」です。ナンバープレートを取得しなければ運転できません。

自賠責保険への加入

自賠責保険への加入は法律で義務付けられています。

自賠責保険への加入申し込みは、取扱店、自賠責保険取扱店、コンビニエンスストアなどでできます。

メモ

事故の程度によっては、自賠責保険だけでは費用が対応できない場合があります。そのため自賠責保険に合わせ任意保険への加入も推奨します。既に自動車保険にご加入の場合は、その自動車保険の特約で附帯されることもありますので、ご加入の自動車保険の窓口にお問い合わせください。

ヘルメットを用意

運転する際はヘルメットの着用が法律で義務付けられています。二輪車用ヘルメットをご用意ください。

運転免許証を携帯

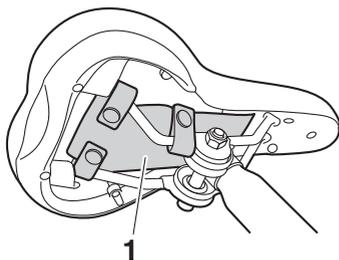
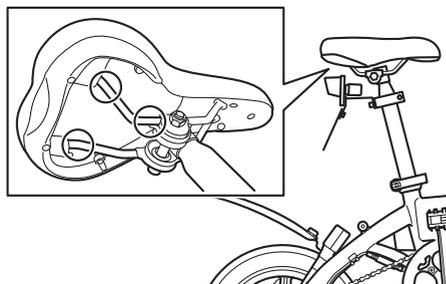
当製品を運転するには原付免許以上又は、普通自動車免許以上の運転免許が必要です。運転免許を取得し、その運転免許証を運転時は常に携帯してください。

最初に運転するとき

証明書携行用ケースの取り付け

以下の手順で、車両に証明書携行用ケースを取り付けてください。

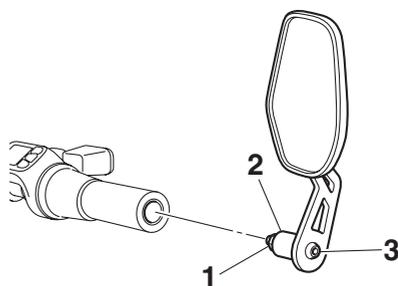
- 1 証明書携行用ケースに、自賠責保険証明書を入れます。
- 2 証明書携行用ケースを、シート下の図で示す丸印の位置に取り付けます。



- 1 証明書携行用ケース

サイドミラーの取り付け

- 1 ミラーナットがゴムブッシュにあたるまで、ナットを回します。



- 1 ミラーナット
- 2 ゴムブッシュ
- 3 ミラーボルト

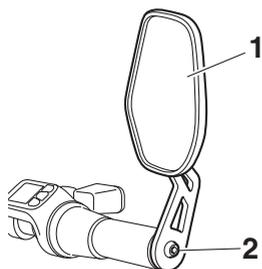
最初に運転するとき

- 2** ミラーをハンドルに取り付け、ミラーボルトを規定のトルクで締め付けます。

メモ

ボルトを締めてもミラーが固定されない場合は、手順1でのナットの締め付け不足が考えられます。手順1に戻り、ナットを再締め付けしてください。

ミラーボルト締め付けトルク
3 N・m



- 1 ミラー
2 ミラーボルト

メモ

サイドミラーの調節は、40ページの「サイドミラーの調節」を参照。

注意

ミラーを取り外す際に、ミラーボルトの緩めすぎには注意してください。ミラーボルトを緩めすぎるとハンドルの中でナットが外れ、ゴムブッシュが取り外せなくなります。

バッテリーの起動

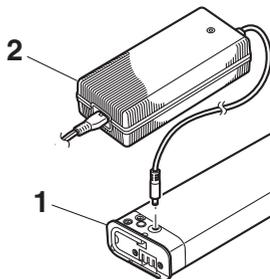
車両お届け時には、バッテリーが休止状態になっているため、そのままではご利用できません。

車両を初めて利用する前に、バッテリーを起動する必要があります。一度充電器につないでください。

- 1** 初回充電時は、必ずバッテリー単体で充電を開始してください。

メモ

充電器は、確実に奥までしっかりと挿し込まれていることを確認してください。



- 1 バッテリー
2 バッテリー充電器

最初に運転するとき

- 2 充電器のインディケータ LED が赤色に点灯すれば、バッテリーの起動完了です。

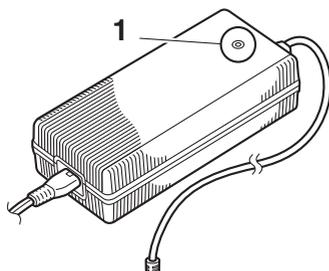
メモ

一度インディケータ LED が赤色に点灯すればバッテリーはご利用可能になりますが、車両出荷時には、バッテリーは満充電になっておりませんので、走行前には充電することを推奨します。

YubiLock[®]（指紋認証鍵）の初期設定

YubiLock[®]（指紋認証鍵）は、出荷時、どなたの指でも解錠できる状態です。盗難防止のため最初に運転する前に必ず初期設定をしてください。

YubiLock[®]（指紋認証鍵）の初期設定の方法は、21 ページ「初期設定」を参照。



1 インディケータ LED

- 3 充電器を取り外し、バッテリーを車両へ取り付けます。

メモ

バッテリーの取り付けは、30 ページ「バッテリーの取り付け」を参照。

各部の操作

インフォメーション・ディスプレイ

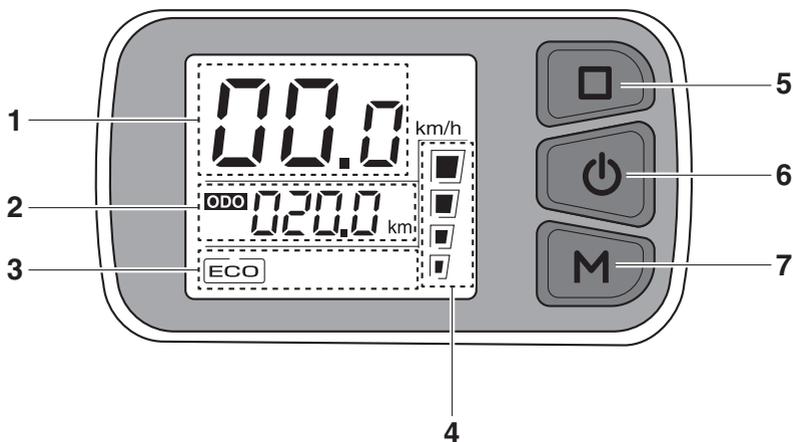
以下の機能があります。

- パワーのオン・オフ
- 速度表示
- 走行モード表示
- 走行モードの切り替え
- バッテリー残量目安表示
- バッテリー電圧表示
- オドメーター（総走行距離表示）
- トリップメーター（走行距離表示）

5

警告

バッテリーの残量の確認や、表示の切り替えは必ず停車中に行ってください。



- 1 速度表示
- 2 走行距離 / バッテリー電圧表示
- 3 走行モード表示
- 4 バッテリー残量目安表示
- 5 表示切替ボタン
- 6 パワースイッチ
- 7 走行モード切替ボタン

各部の操作

パワースイッチ

⚠ 注意

走行中にパワースイッチの操作をしないでください。

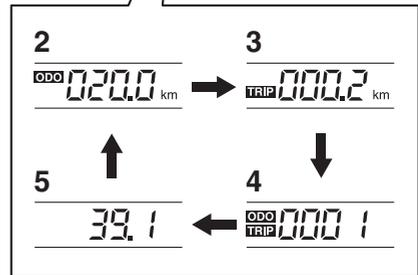
YubiLock®（指紋認証鍵）がロック解除状態のときに、パワースイッチを長押しする（約2秒間押し続ける）ことで、パワーのオン/オフができます。

📖 メモ

- 当製品は原動機付自転車（原付）のため、運転する際はヘルメットの着用が法律で義務付けられています。
- 原動機付自転車は走行時には、日中でも灯火類の点灯が義務付けられています。
- ECO（ペダル走行モード）で運転する場合でも、必ずパワーをオンにしてください。
- 電源がオフ（バッテリーが切れた状態）では、ウインカー等の電装系が機能しないため、道路交通法上原動機付自転車として整備不良となります。
- YubiLock®（指紋認証鍵）のロック解除方法は、24 ページ「YubiLock®（指紋認証鍵）の解錠」を参照。

表示切替ボタン

表示切替ボタンを押すごとに、走行距離 / バッテリー電圧表示が、オドメーター→トリップメーター→オドメーター（1000 km 以上）→バッテリー電圧表示→オドメーターの順で切り替わります。



- 1 表示切替ボタン
- 2 オドメーター（総走行距離表示）
- 3 トリップメーター（走行距離表示）
- 4 オドメーター（1000 km ごとに加算。0001 の場合 1,000 km を示します。）
- 5 バッテリー電圧（V）表示

各部の操作

オドメーター

走行した総距離を表示します。

メモ

オドメーターはリセットできません。



トリップメーター

パワーをオンした所からの走行距離を表示します。

メモ

トリップメーターは、パワーオフするごとにリセットされます。

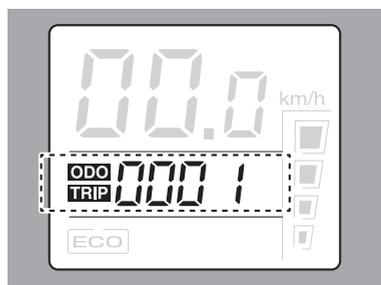


オドメーター (1000 km 以上)

走行した総距離 (1,000 km 以上) を表示します。

メモ

- オドメーターはリセットできません。
- 1,000 km は“0001”、2,000 km は“0002”と表示されます。



例：(ODO,TRIP 表示)：“1”+(ODO 表示)：“234.5” → 走行距離 1234.5 km

ODO 0001
TRIP 000.2

+

ODO 234.5 km

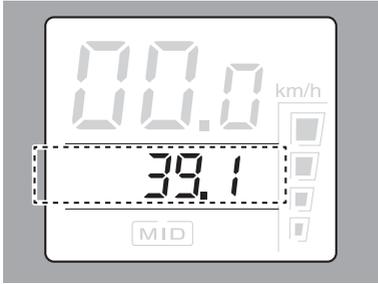


1234.5km

各部の操作

バッテリー電圧表示

バッテリーの電圧 (V) を表示します。

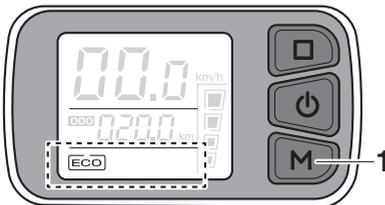


走行モード切替ボタン

走行モード切替ボタンを押すごとに、走行モードが ECO → MID → HIGH → ECO の順で走行モードが切り替わります。

メモ

- パワーをオンしたときは、常時 ECO になります。
- 走行モードの切り替えは走行中にも可能です。
- 各走行モードについては、48 ページ「走行」を参照。



1 走行モード切替ボタン

走行モード表示

選択している走行モードを表示します。
表示モードと走行方法は以下の通りです。

表示モード	走行方法
ECO	ペダル走行
MID	弱・ハイブリッド走行 電動バイク走行
HIGH	強・ハイブリッド走行 電動バイク走行

速度表示

車両の速度を表示します。



各部の操作

バッテリー残量表示目安

バッテリーの残量の目安を表示します。表示とバッテリー残量の目安は以下の通りです。

表示	バッテリー残量
	約 100 ~ 70%
	約 70 ~ 50%
	約 50 ~ 30%
	約 30% ~

メモ

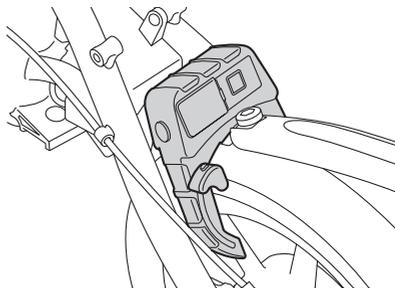
- 表示が1個点灯の場合は充電を推奨します。表示が1個点灯の状態が続けて走行される場合はECOモードに切り替えてください。
- バッテリー残量がゼロになると、ウィンカー、ブレーキランプ、ヘッドランプ等灯火類が点灯しなくなり、法的に整備不良となり走行できなくなるのでご注意ください。

YubiLock® (指紋認証鍵)

⚠ 注意

- 指紋の特徴情報を利用して認証を行います。
- 指紋の特徴情報が少なくYubiLock®をご利用いただけない場合は、YubiLock®解錠キーの利用を推奨します。
- 認証性能はお客様の使用状況により異なります。お客様の指紋状態により、認証性能が低下することもあります。
- 指紋認証技術は、完全な本人認証、照合を保証するものではありません。第三者に本製品を使用されたこと、また使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、当社では一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

YubiLock® (指紋認証鍵) は、指紋を登録し、その指紋で後輪のロック解除と、同時にパワーオン及び、後輪のロックをするシステムです。



各部の操作

操作パネル

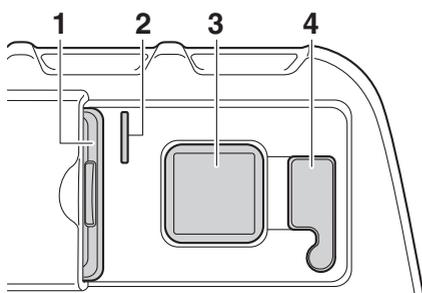
操作パネルは、シャッターを左にスライドさせると現れます。



1 シャッター

注意

YubiLock® (指紋認証鍵) の操作終了後は、必ずこのシャッターを右にスライドさせて閉じてください。



- 1 シャッター
- 2 LED ランプ
- 3 指紋認証センサー
- 4 充電口 (micro USB 端子 Type B)

初期設定

注意

YubiLock® (指紋認証鍵) は、初期設定をする前は、どなたの指紋でも解錠できません。盗難防止のため必ず初期設定をしてください。

初期設定では、管理者の指紋登録と使用者の指紋登録をします。

管理者の指紋は 3 個、使用者の指紋は 17 個、計 20 個の指紋登録をします。

管理者と使用者では、YubiLock® (指紋認証鍵) で操作できることが違います。

操作	管理者	使用者
施錠	○	○
解錠	○	○
指紋の登録	○	
指紋のリセット	○	

メモ

- 指紋の登録順で管理者と使用者が決まります。1 番目～ 3 番目の登録が「管理者」となり、4 番目～ 20 番目の登録が「使用者」となります。詳しくは以後ページの「管理者の指紋登録」と「4 本目以降 (使用者) の指紋登録」を参照してください。
- 登録する指紋の数量は、人数ではありません。一人でも、人差指、中指、薬指など複数個の指紋を登録することができます。

各部の操作

管理者の指紋登録

管理者の指紋登録をします。以下の手順で行ってください。

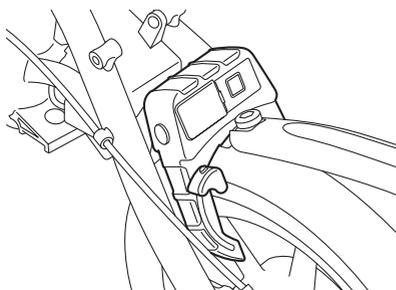
メモ

- まずは利き手の指3本の指紋を登録することを推奨します。
- 最初に登録した指3本の指紋が「管理者」となり、追加の指紋登録や指紋のリセットに必要になります。

1 YubiLock® (指紋認証鍵) が解錠していることを確認します。

メモ

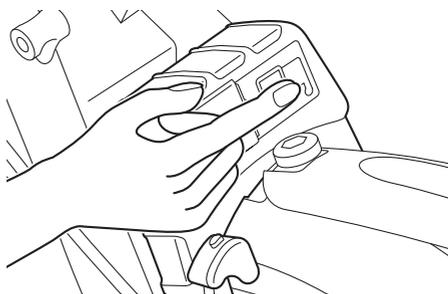
施錠されている場合は、任意の指で指紋認証センサーに触れて解錠します。



2 登録したい指1本目で指紋認証センサー(センサー)に触れ、そのまま離さないようにします。

メモ

指を押し付けている間に、「ピッ」と音が鳴りながら橙色LEDランプと緑色LEDランプが交互に点滅し、その後、緑色LEDランプが点滅します。



3 音とLEDの点滅を確認後、一度指をセンサーから離します。

4 登録したい指1本目でセンサーに5回触れます。

メモ

- 一度触れるごとに「ピッ」と鳴り、5回目で「ピー」と長く鳴ります。
- 5回触れる際に、なるべくいろいろな方向から触れていただくと、指紋の認証精度が上がります。(以降手順も同様)

各部の操作

5 続けて、登録したい指 2本目でセンサーに5回触れます。

メモ

一度触れるごとに「ピッ」と鳴り、5回目で「ピー」と長く鳴ります。

6 続けて、登録したい指 3本目でセンサーに5回触れます。

メモ

- 一度触れるごとに「ピッ」と鳴り、5回目で「ピー」と長く鳴ります。
- 4本目以降（使用者）の指紋登録を行う場合は、以後の「4本目以降（使用者）の指紋登録」を参照。

4本目以降（使用者）の指紋登録

管理者の指紋（指3本の指紋）登録後、以下の手順で4本目以降（使用者）の指紋登録を行います。

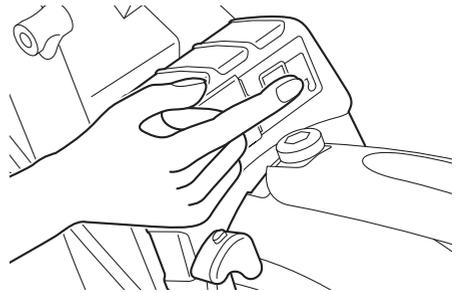
メモ

- 使用者の指紋は必要に応じた数を登録してください。任意に0～17個登録することができます。
- 4本目以降（使用者）の指紋登録は、1本ずつになります。
- 使用者の指紋登録数は最大で17個です。

1 管理者として登録した指紋で、センサーに触れ、そのまま離さないようにします。

メモ

- 指を押し付けている間に、「ピッ」と音が鳴りながら橙色LEDランプと緑色LEDランプが交互に点滅し、その後、緑色LEDランプが点滅します。
- 緑色LEDランプが点滅し、赤色LEDランプが点灯する場合は登録数の上限に達しています。



2 音とLEDの点滅を確認後、一度指をセンサーから離します。

3 登録したい指でセンサーに5回触れます。

メモ

- 一度触れるごとに「ピッ」と鳴り、5回目で「ピー」と長く鳴ります。
- 続けて他の指紋を登録する場合は、手順1から3を繰り返し行ってください。

各部の操作

登録指紋リセット

全ての登録してある指紋をリセットしたい場合や、新たに管理者登録したいときは、以下の手順で登録指紋のリセットをしてください。

メモ

登録指紋のリセットをすることでどの指紋でも解錠できる状態になります。

- 1 「管理者」の指紋（最初に登録した指3本の指紋のどれか）でセンサーに触れ、そのまま離さないようにします。

メモ

- 指を押し付けている間に、緑色 LED ランプと橙色 LED ランプが交互に点滅した後、緑色 LED ランプ点滅に変わり、しばらくすると青色 LED ランプ点滅に変わります。
- 緑色 LED ランプが点滅し、赤色 LED ランプが点灯する場合は登録数の上限に達しています。

- 2 「ピー」と長い音が鳴ることを確認して、指をセンサーから離します。

注意

登録指紋リセット後、YubiLock[®]（指紋認証鍵）は、どなたの指紋でも解錠できます。盗難防止のため必ず初期設定をしてください。

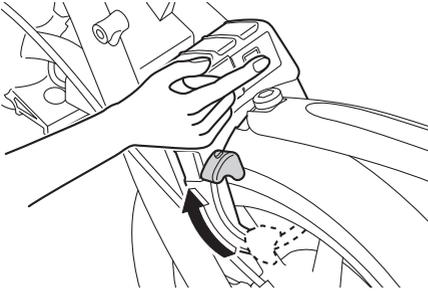
YubiLock[®]（指紋認証鍵）の解錠

- 1 シャッターを開けます。
- 2 任意の指でセンサーに触れて解錠します。

メモ

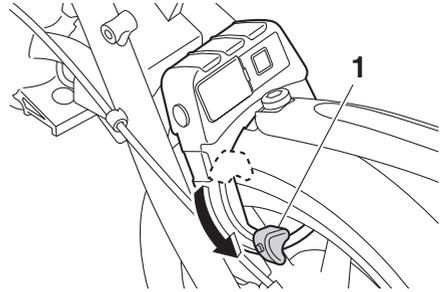
- 管理者の指紋、または指紋が未登録の場合、橙色 LED ランプと緑色 LED ランプが交互に点滅します。
- 使用者の指紋の場合、緑色 LED ランプが点滅します。
- 解錠するとバイクがパワーオンします。インフォメーション・ディスプレイがオンになり、ヘッドライトとブレーキランプ（テールランプ）が点灯します。
- YubiLock[®]（指紋認証鍵）に充電ができない場合や充電しても作動しない場合は、YubiLock[®] 解錠キーを使用して解錠してください。
- YubiLock[®] 解錠キーを使用した解錠方法は、27 ページ「YubiLock[®] 解錠キー」を参照。

各部の操作

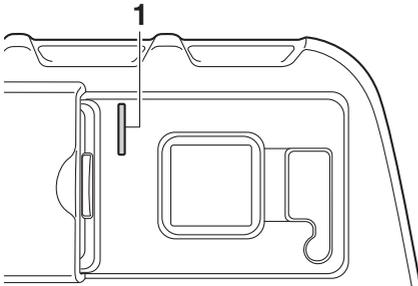


YubiLock® (指紋認証鍵) の施錠

- 1 ロックレバー上部のボタンを押しながらロックレバーをカチッと音がするまで下げます。



- 1 ロックレバー



- 1 LEDランプ

メモ

- 指紋が読み取れていない場合、または登録されていない指で解錠しようとした場合は「ピピピ」と3回鳴り、赤色LEDランプが点滅します。
- 連続して認証を失敗した場合は、赤色LEDランプが約1分間点滅し、解錠できなくなります。赤色LEDランプが消えた後に、再度お試しください。

- 3 シャッターを閉めます。

各部の操作

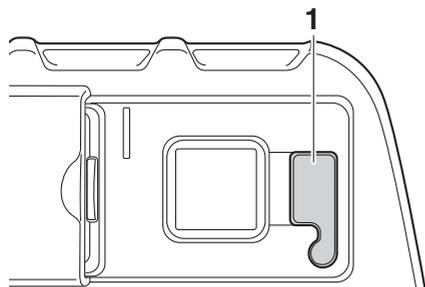
YubiLock® (指紋認証鍵) の充電

YubiLock® (指紋認証鍵) は、車台本体のバッテリーとは別に独自でバッテリーを内蔵しています。そのため、単体で充電する必要があります。こまめに充電をしてください。

メモ

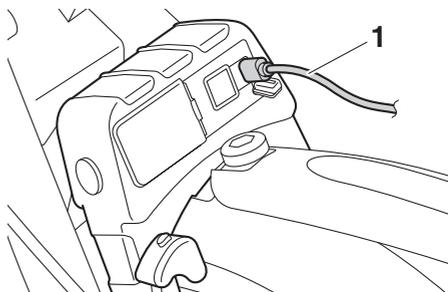
- 使用する前に充電をお願いいたします。
- 充電サイクルは、開閉頻度、気温・気圧等使用環境によって変わります。

- 1 シャッターを開けます。
- 2 操作パネルにある micro USB 端子のカバーを取り外します。



1 カバー

- 3 YubiLock® 本体の micro USB 端子入口に市販の micro USB ケーブルを接続し、次に AC コンセントに接続します。



1 micro USB ケーブル

メモ

- 充電に使用する micro USB ケーブルは、市販のスマートフォン用などを別途ご用意ください。
- 充電中は、指紋認証センサー左側の LED ランプが赤に点滅します。
- 充電が完了すると LED ランプが赤から緑に点灯します。
- 満充電までの時間は、およそ 3 時間です。

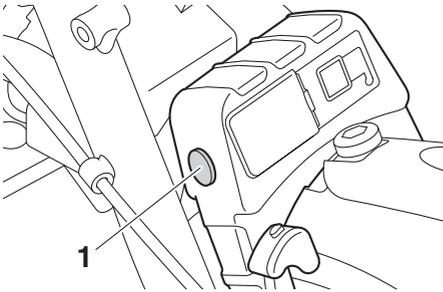
- 4 充電完了後、micro USB ケーブルを取り外し、カバーを取り付けます。
- 5 シャッターを閉めます。

各部の操作

YubiLock® 解錠キー

YubiLock® (指紋認証鍵) の充電が切れたときなど、作動しない場合には、以下を参照に YubiLock® 解錠キーを使用して解錠してください。

- 1 YubiLock® (指紋認証鍵) 本体の左側面にある、防水用ゴムキャップを取り外します。

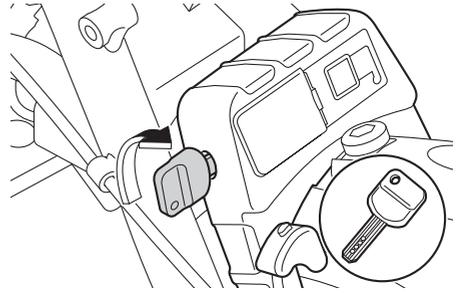


1 防水用ゴムキャップ

⚠ 注意

取り外したゴムキャップはなくさないようにしてください。

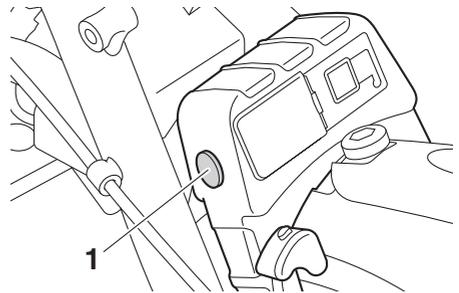
- 2 YubiLock® 解錠キーを差込口に挿入し、キーを右に回して解錠します。



- 3 解錠後、キーを左に回して元の位置に戻します。
- 4 防水用ゴムキャップを取り付けます。

⚠ 注意

必ずゴムキャップを装着してください。YubiLock® (指紋認証鍵) 内に水が入り故障する原因になります。



1 防水用ゴムキャップ

各部の操作

バッテリー

バッテリーは、リチウムイオン電池を使用しています。

バッテリーの取り扱い

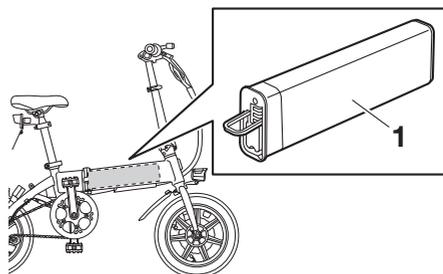
バッテリーの取扱いは、火災や感電を防ぐため下記のことにご注意ください。

警告

- バッテリーを当製品以外に使用しないでください。
- バッテリーは、落下や破損しないよう、取り扱いには十分ご注意ください。落下、破損により火災の恐れがあります。
- バッテリー本体は平らな形状で滑りやすい材質でできています。しっかりと手で持ち、取り扱いには十分注意してください。
- バッテリーを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- バッテリーに水をかけたり、水の中に入れてください。
- バッテリーを分解しないでください。
- バッテリーを加工、改造などをしないでください。
- バッテリーを火気に近づけないでください。
- バッテリー外装に破損があったり、凹みがあった場合は使用しないでください。

注意

- バッテリーは、車体に入れたまま長期間放置すると、バッテリーの電圧が充電できないほど下がり、使用できなくなる恐れがあります。
- バッテリーは、車体から抜いた状態でも自然放電します。車体から抜いて保管する場合も、最低1ヶ月に一度は、補充電をしてください。



1 バッテリー

バッテリーの取り外し

注意

バッテリーを取り外す際は、必ずパワーオフした状態で作業をしてください。

- 1 シートを一番下まで下げます。

メモ

シートの調整は、35 ページの「シートの調整」を参照。

各部の操作

2 フレーム下側にあるバッテリーキー差込口に、バッテリーキーを差し込み、キーを左に回してロックを解除します。

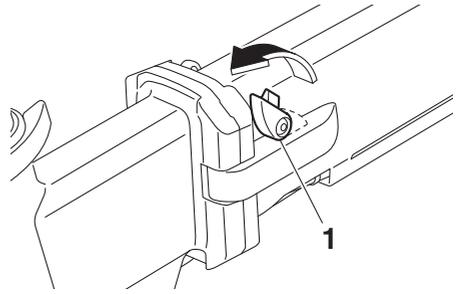
⚠ 注意

ロックを解除しないままバッテリーを抜こうとすると、破損の恐れがあります。

📖 メモ

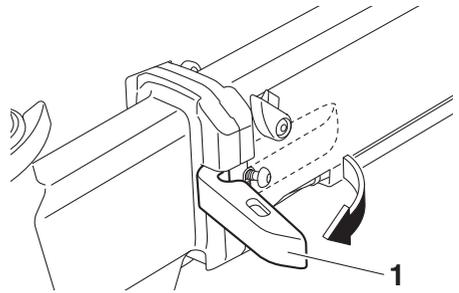
バッテリーキーは予備を含め 2 本が付属されています。なくさないようにしてください。

3 フレームロックを反時計回りに回して、ロックを解除します。

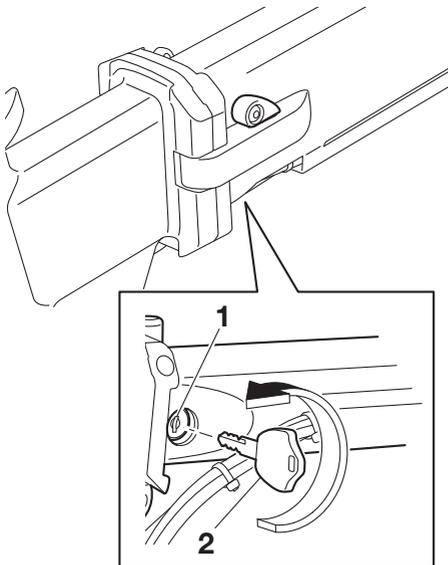


1 フレームロック

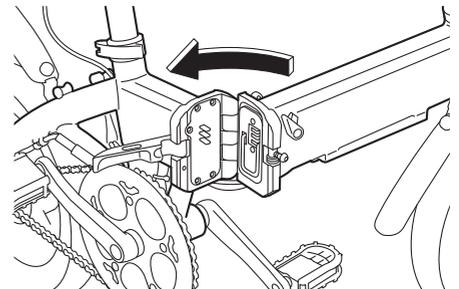
4 フレームロックレバーを手前に引き、フレームを折り曲げます。



1 フレームロックレバー



1 バッテリーキー差込口
2 バッテリーキー

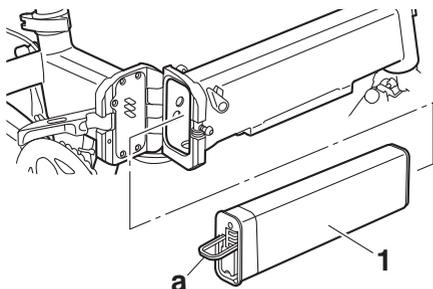


各部の操作

- 5 バッテリーの取っ手下図“a”を起こして、フレームからバッテリーを抜き取ります。

警告

バッテリー外装は滑りやすい材質です。バッテリーを車両から抜き取る際は、低い姿勢で行ってください。誤って高い位置からバッテリーが落下した場合に、破損・火災の恐れがあります。



1 バッテリー

バッテリーの取り付け

バッテリーの取り付けは、取り外しの逆手順で行ってください。

警告

バッテリー外装は滑りやすい材質です。バッテリーを車両に入れる際は、低い姿勢で行ってください。誤って高い位置からバッテリーが落下した場合に、破損・火災の恐れがあります。

バッテリーの充電 (バッテリー単体での充電)

バッテリーへの充電は、バッテリーを車両から取り外し、付属の専用充電器を使用して、ご家庭のACコンセント(100～240V)からできます。

警告

- 充電器は、HYBRID BIKE GFR-02のバッテリー以外で使用しないでください。
- 充電器は、充電完了後に自動で充電を停止しますが、安全のため充電終了後はACコンセントからケーブルを抜いてください。
- 充電器から異臭や発煙がある場合には直ちにコンセントから抜き使用しないでください。
- バッテリーや充電器は、水に濡らしたり、濡れた手で触らないでください。
- バッテリーや充電器は、分解や改造をしないでください。

注意

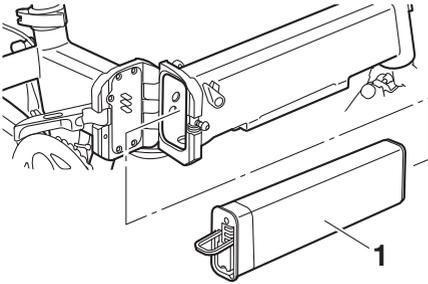
- バッテリーの充電には、付属のHYBRID BIKE GFR-02専用充電器以外は使用しないでください。
- 充電器は充電中の状況によって、高温になります。充電器に触らないでください。温度の高い場所や燃えやすいものの近くでバッテリーを充電しないでください。また、温度が高くなることで、変色や変形する可能性のあるものの近くに、充電器を置かないでください。
- 車両がパワーオンの状態で充電しないでください。

各部の操作

1 バッテリーを車両から取り外します。

メモ

バッテリーの取り外しは、28 ページ「バッテリーの取り外し」を参照。

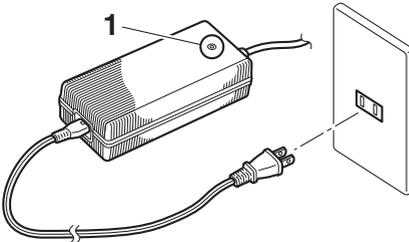


1 バッテリー

2 充電器のプラグを AC コンセントに接続します。

メモ

充電器をコンセントに接続した際、充電器のインディケータ LED ランプが緑色に点灯していることを確認します。

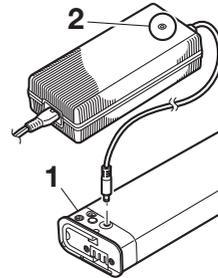


1 インディケータ LED

3 バッテリーに充電器を接続し、充電を開始します。

メモ

- 充電コネクタをバッテリーに挿すときに、火花が発生する場合があります。
- 充電器をバッテリーに接続すると自動で充電を開始します。
- 充電中は充電器のインディケータ LED ランプが赤色に点灯します。
- 充電時間は満充電で約 2～3 時間です。
- 充電が完了すると充電器のインディケータ LED ランプが緑色に点灯もしくは点滅します。



1 バッテリー

2 インディケータ LED

注意

充電中は、充電器本体が高温になりますので注意してください。

各部の操作

4 充電器をバッテリーから取り外します。

5 バッテリーを車両に取り付けます。

メモ

バッテリーの取り付けは、30 ページ「バッテリーの取り付け」を参照。

バッテリーの充電

バッテリーへの充電は、付属の専用充電器を使用して、ご家庭の AC コンセント (100 ~ 240V) からできます。

警告

- 充電器は、HYBRID BIKE GFR-02 のバッテリー以外で 사용하지 않습니다。
- 充電器は、充電完了後に自動で充電を停止しますが、安全のため充電終了後は AC コンセントからケーブルを抜いてください。
- 充電器から異臭や発煙がある場合には直ちにコンセントから抜き使用しないでください。
- バッテリーや充電器は、水に濡らしたり、濡れた手で触らないでください。
- バッテリーや充電器は、分解や改造をしないでください。

注意

- バッテリーの充電には、付属の HYBRID BIKE GFR-02 専用充電器以外は使用しないでください。
- 充電器は充電中の状況によって、高温になります。充電器に触らないでください。温度の高い場所や燃えやすいものの近くでバッテリーを充電しないでください。また、温度が高くなることで、変色や変形する可能性のあるものの近くに、充電器を置かないでください。
- 車両がパワーオンの状態で充電しないでください。

各部の操作

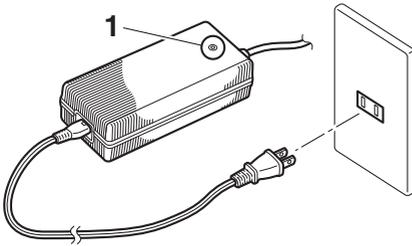
メモ

- バッテリーは、車両に取り付けた状態でも、取り外した状態でも充電できます。
- バッテリーは充電と放電を繰り返すと消耗します。参考として 500 回の充電でバッテリー容量は 80%程度まで消耗します。

- 1 充電器のプラグを AC コンセントに接続します。

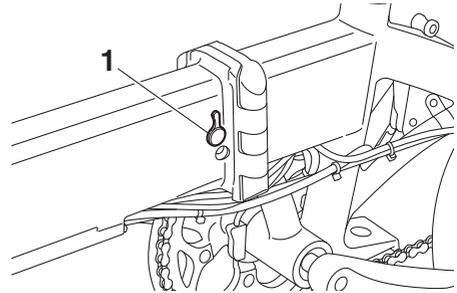
メモ

充電器をコンセントに接続した際、充電器のインディケーター LED ランプが緑色に点灯していることを確認します。



- 1 インディケーター LED

- 2 キャップを取り外します。



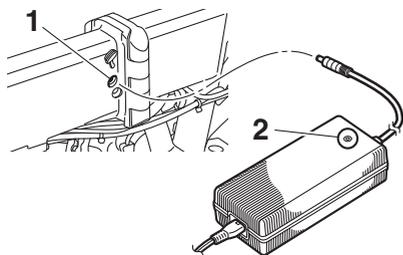
- 1 キャップ

各部の操作

3 車両のバッテリー充電口に充電器を接続します。

メモ

- 充電コネクタを車両に挿すときに、火花が発生する場合があります。
- 充電器を車両に接続すると自動で充電を開始します。
- 充電中は充電器のインディケータ LED ランプが赤色に点灯します。
- 充電時間は満充電で約 2 ~ 3 時間です。
- 充電が完了すると充電器のインディケータ LED ランプが緑色に点灯もしくは点滅します。



- 1 充電口
- 2 インディケータ LED

注意

充電中は、充電器本体が高温になりますので注意してください。

4 充電器を車両から取り外し、車両にキャップを取り付けます。

充電器

充電器の取り扱いは、火災や感電を防ぐため下記のことにご注意ください。

警告

- 充電器は、HYBRID BIKE GFR-02 のバッテリー以外で使用しないでください。
- 充電器は、充電完了後に自動で充電を停止しますが、安全のため充電終了後は AC コンセントからケーブルを抜いてください。
- 充電器から異臭や発煙、異常な発熱がある場合には直ちにコンセントから抜き使用しないでください。
- 充電器は、水に濡らしたり、濡れた手で触らないでください。
- 充電器は、分解や改造をしないでください。

注意

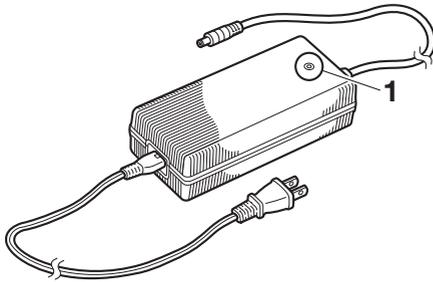
- バッテリーの充電には、付属の HYBRID BIKE GFR-02 専用充電器以外は使用しないでください。
- 充電器は充電中の状況によって、高温になります。充電器に触らないでください。温度の高い場所や燃えやすいものの近くでバッテリーを充電しないでください。また、温度が高くなることで、変色や変形する可能性のあるものの近くに、充電器を置かないでください。
- 車両がパワーオンの状態で充電しないでください。

各部の操作

付属の充電器は本製品専用の充電器です。充電器を、ご家庭の AC コンセント (100 ~ 240V) と車両のバッテリーに接続して充電します。

バッテリーの充電方法は、32 ページ「バッテリーの充電」を参照。

バッテリーへの充電状況は、充電器のインディケーター (LED ランプ) でわかります。



1 インディケーター LED

LED 色	点灯状況	充電状況
緑	点灯	待機中 (ACコンセント側のみ接続)
赤	点灯	充電中
緑	点灯または点滅	充電完了

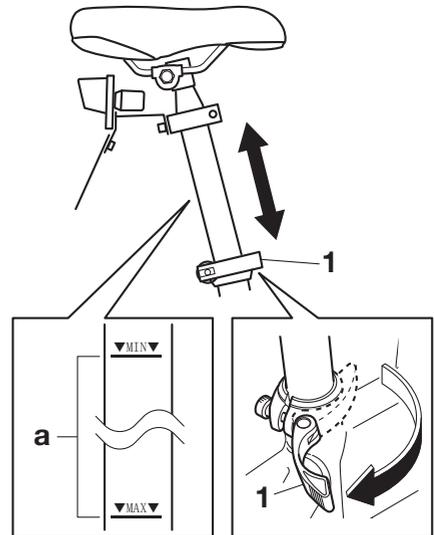
シート

シートの調整

- 1 シートポストクランプを手前に引いて、シートの高さを調整します。

メモ

- シートの位置は、シートにまたがった状態で、両足のつま先が地面に接地する高さに調整してください。
- シートの調整は、シートポストの表示 (MAX、MIN) の範囲下図 “a” でしてください。



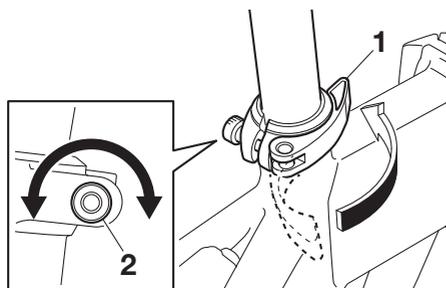
1 シートポストクランプ

各部の操作

- 2** シートポストクランプを元の位置に戻します。

メモ

- シートポストクランプを元の位置に戻してもシート位置がしっかりと固定できない場合は、レバーが開いた状態でレバー調節ツマミを時計回りに回して調節してください。
- シートポストクランプが固く元の位置に戻し難い場合は、レバーが開いた状態でレバー調節ツマミを反時計回りに回して調節してください。



- 1 シートポストクランプ
2 レバー調節ツマミ

⚠ 危険

シートの高さを、シートポストの MAX 印の範囲を超えて固定すると、乗車中に破損する恐れがあります。必ず MAX 印～MIN 印の間で調整してください。

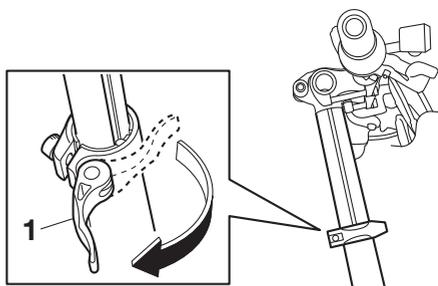
ハンドル

ハンドルは、使用者の好みに応じて高さを調節できます。

ハンドルの高さの調整

車両を運転する際は、ハンドルは正しい位置に調整してください。

- 1** ハンドル高さ調整レバーを手前に引きます。



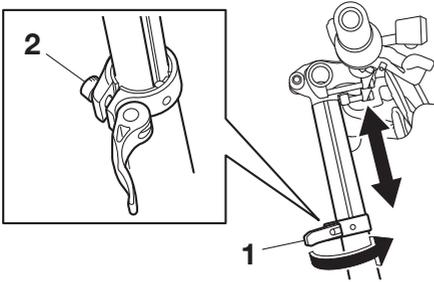
- 1 ハンドル高さ調整レバー

- 2** ハンドルの高さを調整して、ハンドル高さ調整レバーを元の位置に戻します。

各部の操作

メモ

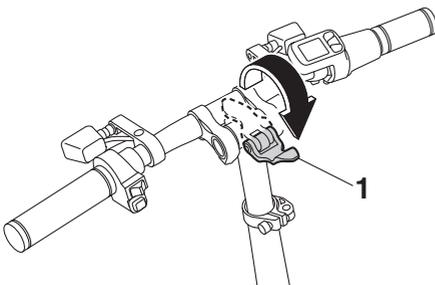
- ハンドル高さ調整レバーを元の位置に戻してもハンドル位置がしっかりと固定できない場合は、レバーが開いた状態でレバー調節つまみを時計周りに回して調節してください。
- ハンドル高さ調整レバーが固く元の位置に戻し難い場合は、レバーが開いた状態でレバー調節つまみを反時計周りに回して調節してください。



- 1 ハンドル高さ調整レバー
- 2 レバー調節つまみ

ハンドルの角度の調整

- 1 ハンドル固定レバーを手前に引きます。

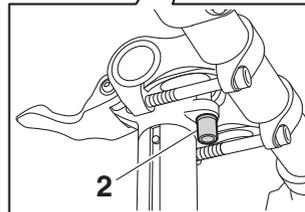
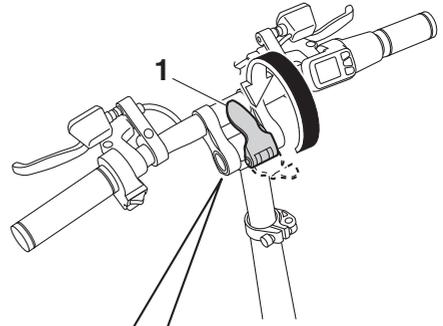


- 1 ハンドル固定レバー

- 2 ハンドルを外部からウィンカーが視認できる角度にし、ハンドル固定レバーを元位置に戻します。

メモ

- ハンドル固定レバーを元の位置に戻してもハンドルがしっかりと固定できない場合は、レバーが開いた状態でレバー調節つまみを時計周りに回して調節してください。
- ハンドル固定レバーが固く元の位置に戻し難い場合は、レバーが開いた状態でレバー調節つまみを反時計周りに回して調節してください。



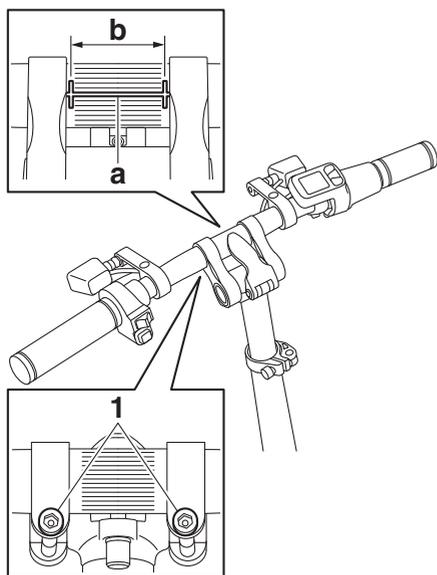
- 1 ハンドル固定レバー
- 2 レバー調節つまみ

各部の操作

- 3** ハンドル固定ボルトを緩めて、ウインカーが前を向くように、ハンドルを動かします。

メモ

下図のマーク“a”が範囲“b”に入っていることを確認してください。



1 ハンドル固定ボルト

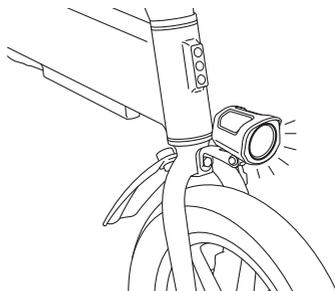
- 4** ハンドル固定ボルトを締めます。

ハンドル固定ボルト締め付けトルク
9 N・m

ヘッドライト

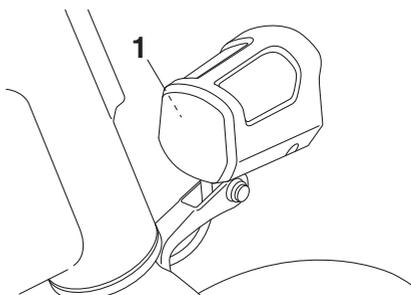
ヘッドライトは、パワーオンすることで、自動的に点灯します。

ヘッドライトは、法令により走行中は日中でも点灯することが義務づけられています。



ホーン

ホーンは、ヘッドライト内部にあります。ホーンボタンを押すと鳴動します。



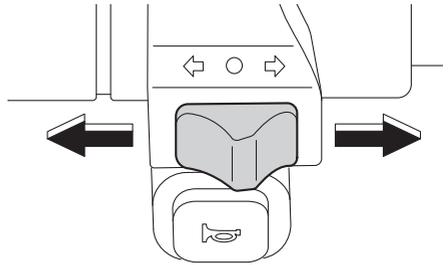
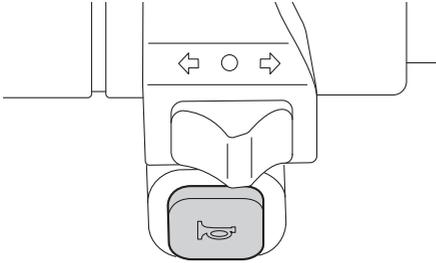
1 ホーン

各部の操作

5

ホーンボタン

ボタンを押すとホーンが鳴動します。ボタンを押している間、ホーンは鳴動し続けます。



前輪ブレーキレバー

前輪ブレーキをかける際は、ハンドル右側のレバーを握ります。

警告

ブレーキレバーを握るときにはスロットルから手を放してください。

ウィンカースイッチ (方向指示器)

ウィンカースイッチ (方向指示器) は進路変更の合図に使用します。

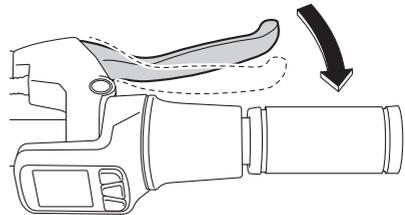
ウィンカースイッチを右にスライドすると、右ウィンカーが点滅します。

ウィンカースイッチを左にスライドすると左ウィンカーが点滅します。

ウィンカーを消灯する場合は、スイッチを中央の○印の位置に戻します。

注意

ウィンカー点滅中も、ウィンカーは「カチカチ」といった作動音は鳴りません。ウィンカー指示の戻し忘れにご注意ください。



各部の操作

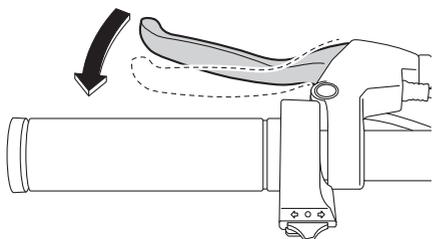
後輪ブレーキレバー

後輪ブレーキをかける際は、ハンドル左側のレバーを握ります。

警告

ブレーキレバーを握るときにはスロットルから手を放してください。

5



サイドミラー

サイドミラーは、使用者の好みに応じて角度を調節できます。

サイドミラーの調節

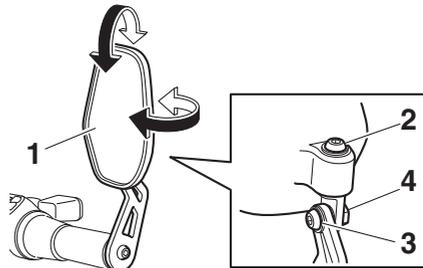
1 サイドミラーを好みの角度に調節します。

2 必要に応じて、ミラー調節ボルトを締めます。

メモ

- ミラーが動いてしまう場合には、ミラー調節ボルトを締め付けてください。
- ミラー調節ボルト（上下）は、ナットを手で固定しながら締めてください。
- ミラー調節ボルトを締め付けすぎると、ミラーが動かなくなります。ミラー調整ボルトは適度な強さで締めて付けてください。

ミラー調節ボルト締め付けトルク
標準 2.5 N・m



- 1 サイドミラー
- 2 ミラー調節ボルト（左右）
- 3 ミラー調節ボルト（上下）
- 4 ナット

スロットル

スロットルは、ハンドル右側グリップの左側とインフォメーション・ディスプレイの間にあります。

スロットルを、右手の人差し指と親指で挟み、手前方向に回すとスロットル・オンとなって、モーター走行ができます。スロットルを戻すと速度が落ちます。

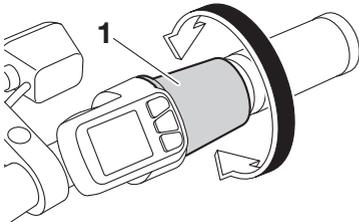
各部の操作

⚠ 危険

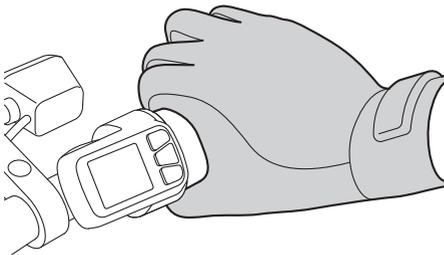
スロットル操作を誤ると急発進し、たいへん危険ですので慎重に操作してください。

📖 メモ

- インフォメーション・ディスプレイの走行状態表示が ECO（ペダル走行モード）のときは、スロットルを回しても走行しません。
- 走行中にブレーキレバーを握ると、自動的にモーター出力が停止します。



1 スロットル

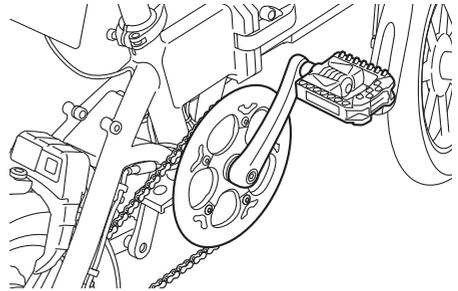


ペダル

どの走行モードでも、ペダルを漕いで走行できます。車両を折り畳む際は、ペダルを折り畳みます。

⚠ 注意

走行モードが HIGH の時は、力強く発進しますので運転には十分注意してください。



各部の操作

スタンド

スタンドは、駐車する際に使用します。また、走行する際にはスタンドを足でけるなどして跳ね上げます。

走行時

走行時は、スタンドを足で反時計回り方向に跳ね上げてください。

跳ね上がると、スタンドは地面に対して水平方向の位置になります。

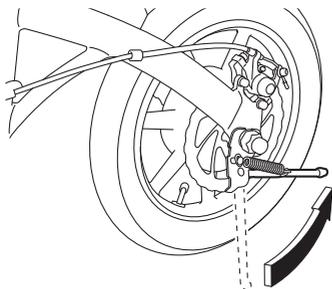
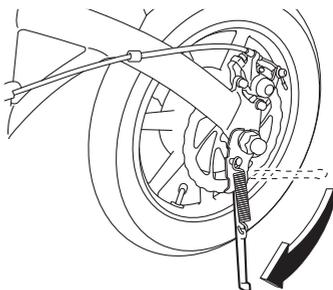
⚠ 危険

走行時は、必ずスタンドを跳ね上げてください。走行中、段差や凹凸があるとスタンドが接触し、たいへん危険です。

駐車時

駐車時は、跳ね上げられているスタンドを、足で時計回り方向に下げてスタンドを立ててください。

スタンドは確実に立てて車両が倒れないようにしてください。



運転前点検

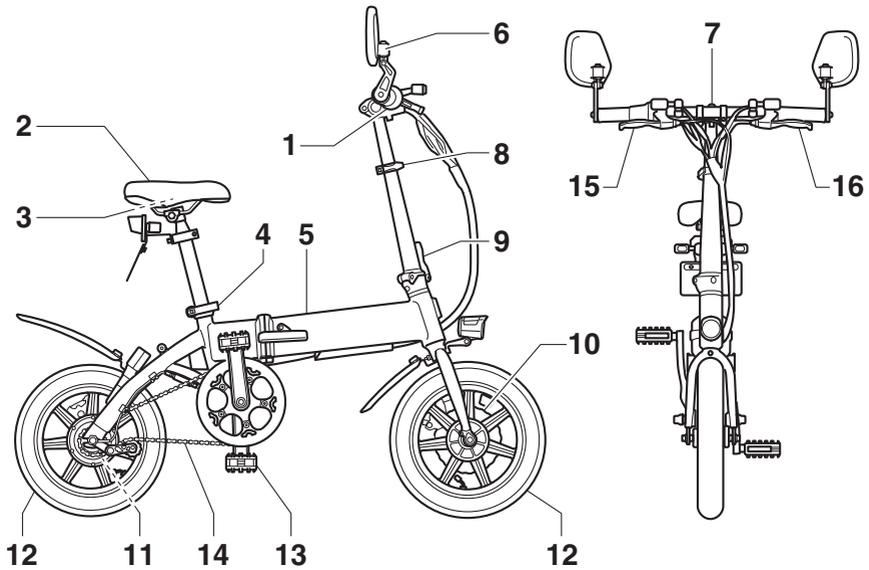
運転前には必ず点検を実施してから走行してください。

最初にパワーオフ状態で点検し、その後パワーオンした状態で点検作業を実施してください。

⚠ 注意

点検で異常が発見されたり、不明点が見つかった場合は、必ず取扱店へご相談ください。

パワーオフ状態での点検



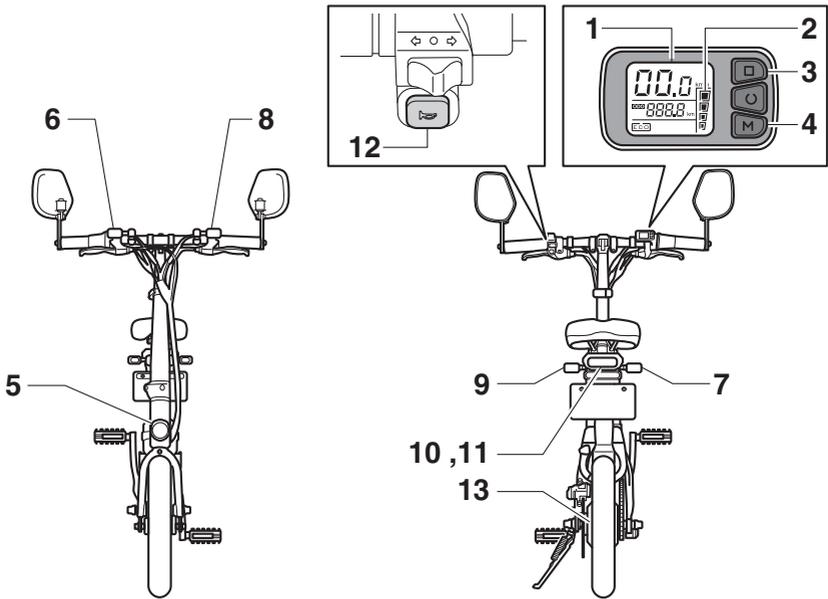
運転前点検

No.	点検箇所	点検内容
1	ハンドル	センターが合っているか？ ガタついていないか？
2	シート	前後の向きが合っているか？ ガタついていないか？ 回転しないか？
3	証明書携行用ケース	携行用ケースがシート下に取り付けられ、自賠責保険証明証が入っているか？
4	シートポストクランプ	レバーはしっかりとロックされているか？ シートが下がらないか？ 高さが合っているか (MIN と MAX の間の位置になっているか) ？
5	フレーム	フレームロックでロックされているか？ フレームロックレバーが開いていないか？
6	サイドミラー	鏡面が汚れていないか？ 後方をしっかりと視認できるよう調整されているか？
7	ハンドル固定レバー	レバーがしっかりとロックされているか？ ブレーキレバーがしっかりと握れるか？
8	ハンドル高さ調整レバー	レバーがしっかりとロックされているか？ 下がらないか？ 高さが合っているか？
9	ハンドル折畳レバー	レバーがしっかりとロックされているか？
10	前輪ブレーキ	ブレーキの動作に問題ないか？ ブレーキに異物等が挟まっていないか？ ブレーキパッドがすり減っていないか？
11	後輪ブレーキ	ブレーキの動作に問題ないか？ ブレーキに異物等が挟まっていないか？ ブレーキパッドがすり減っていないか？
12	タイヤ (前輪/後輪)	タイヤの溝がすり減っていないか？ (1 mm 以下になったら交換)、 タイヤに傷等はないか？ 空気が減ってないか？ [適正空気圧：280～310 kPa (2.8～3.1 bar)]
13	ペダル	ガタつきはないか？ 正しく取り付けられているか？
14	チェーン	切れていないか？ 摩耗していないか？ たるんでいないか？ 小石その他異物が挟まっていないか？ 乾燥していないか？
15	前輪ブレーキレバー	ブレーキレバーを握り、車両を前後に動かし前輪が回らないか？
16	後輪ブレーキレバー	ブレーキレバーを握り、車両を前後に動かし後輪が回らないか？

パワーオン状態での点検

⚠ 危険

パワーオン状態で、スロットルを回さないでください。
スロットルを回すと、車両が動き出してたいへん危険です。



運転前点検

No.	点検箇所	点検内容
1	インフォメーション・ディスプレイ	液晶画面のバックライトが点灯し、ディスプレイが表示されているか？
2	バッテリー残量表示目安	バッテリー残量を確認し、残量表示が 1 個の場合は走行距離が短くなるので充電してください。但し、ECO モード（ペダル走行モード）での走行はできません。 但し、残量表示が1個の場合でも ECO（ペダル走行）はできますが、バッテリー残量が 0 になったときは車体から降りてください。
3	表示切替ボタン	ボタンを押して表示内容が切り替わっているか？ （切り替わり内容は、17 ページ「表示切替ボタン」参照）
4	走行モード切替ボタン	ボタンを押して表示内容が切り替わっているか？ （切り替わり内容は、19 ページ「走行モード切替ボタン」参照）
5	ヘッドライト	点灯しているか？
6	右前ウィンカー	ウィンカースイッチを右にして、右前ウィンカーランプが点滅しているか？
7	右後ウィンカー	ウィンカースイッチを右にして、右後ウィンカーランプが点滅しているか？
8	左前ウィンカー	ウィンカースイッチを左にして、左前ウィンカーランプが点滅しているか？
9	左後ウィンカー	ウィンカースイッチを左にして、左後ウィンカーランプが点滅しているか？
10	テールランプ	テールランプが点灯しているか？
11	ブレーキランプ	右ブレーキレバーを握るとテールランプがより明るく点灯するか？
		左ブレーキレバーを握るとテールランプがより明るく点灯するか？
12	ホーン	ホーンボタンを押して、押している間ホーンが鳴動しているか？
13	モーター	スムーズに動くか？ 異音がしないか？

乗車

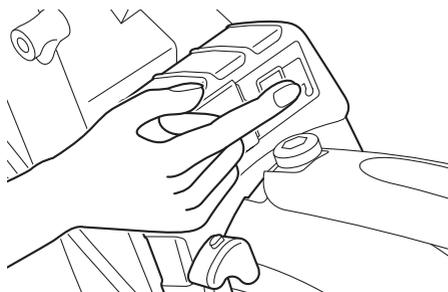
警告

- 乗車前に必ず運転前点検をしてください。運転前点検は、43 ページ「運転前点検」を参照。
- 運転席に着座しないなど走行しない時は、必ずパワーをオフにしてください。MID モード、または HIGH モードでは、スロットルを回したり、ペダルを動かすと、モーターが回ります。意図しない発進を防ぐため、運転席から降りる時や、押して歩くなどの場合も、必ずパワーをオフにしてください。

- 1 YubiLock® (指紋認証鍵) で後輪のロックを解除し、パワーをオンにします。

メモ

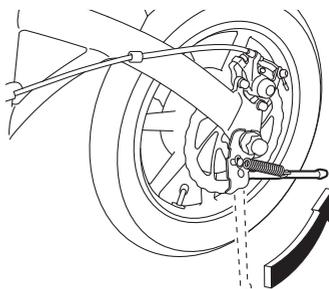
- ペダル走行モードで運転する場合でも、必ずパワーをオンにしてください。
- YubiLock® (指紋認証鍵) のロック解除方法は、24 ページ「YubiLock® (指紋認証鍵) の解錠」を参照。



- 2 スタンドを跳ね上げます。

警告

運転する際は、必ずスタンドを跳ね上げて走行してください。スタンドを跳ね上げないで走行すると、段差等でスタンドが接触し、場合によっては転倒するおそれもあり、たいへん危険です。

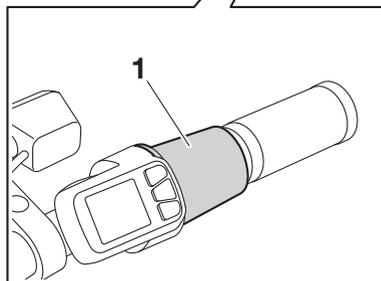
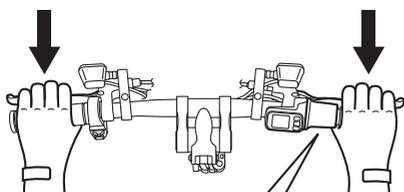


運転

- 3 左右のブレーキレバーをしっかりと握りながら、車両の左側からまたがるようにして乗車します。

⚠ 危険

乗車時、スロットルには絶対触らないでください。車両が動き出し危険です。



1 スロットル

走行

運転経験がない方は、最初は慣れが必要です。

漕ぎ始めに力を入れてペダルを漕いしまうと、モーターがアシストして急発進・急加速となってしまう、たいへん危険です。少し慣らし運転をしてください。ペダルを漕ぐ際も、モーター走行する際もペダルやスロットルの急激な操作をしないでください。

⚠ 警告

- 片足をペダルに載せ、もう片方の足で地面を蹴って助走をつけ、その勢いで一気にまたがってシートに乗る行為、いわゆる「ケンケン乗り」は、たいへん危険ですので絶対にやらないでください。
- 運転する際は、必ずスタンドを足でけるなどして跳ね上げて走行してください。スタンドを跳ね上げないで走行すると、段差等でスタンドが接触し、場合によっては転倒するおそれもあり、たいへん危険です。

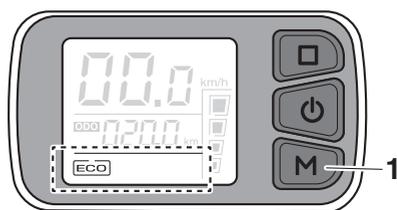
メモ

- バッテリー残量表示が1個になったら、もしくは点滅したら、ECOモードに切り替え、充電をしてください。走行はできませんが、走行中にバッテリー切れになりパワーオフになる可能性があるためご注意ください。
- 要充電の状態でも、ヘッドライト及びウィンカー、ブレーキランプ、ホーンは機能します。
- バッテリー容量がゼロになると、ヘッドライトやブレーキランプが点灯せず、ウィンカーも作動せず、ホーンも鳴らなくなります。この状況では整備不良となり、法令違反となりますので、直ちに運転を中止し（走行禁止）、充電をしてください。
- バッテリー残量によって、最高速度と最大出力は低下します。
- バッテリーの消耗は、運転者の体重、運転の仕方、走行状態、気温、気圧等で変化します。それによって走行可能距離や、最高速度は変化します。

- 1 インフォメーション・ディスプレイを見て、走行モードを確認します。
- 2 インフォメーション・ディスプレイの走行モード切替ボタンを押して、好みの走行モードを選択します。

メモ

- 各走行モードについては、50ページ「ECOモード走行」、51ページ「MIDモード走行」、51ページ「HIGHモード走行」を参照。
- 走行モードの切替は、19ページ「走行モード切替ボタン」を参照。
- 走行モードは、走行中も切り替え可能です。



1 走行モード切替ボタン

運転

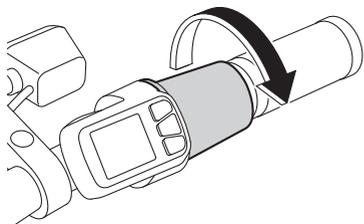
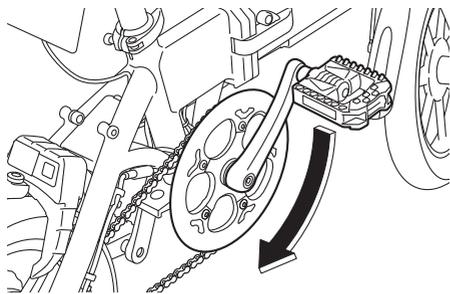
- 3** 走行モードに合わせ、ペダルを漕ぐかスロットルを回して、発進します。

⚠ 注意

HIGHモードでは、ペダルをゆっくり漕いでも、スロットルをゆっくり回しても力強く発進しますので、注意してください。

📖 メモ

- ペダル走行モードで運転する場合でも、必ずパワーをオンにしてください。
- 走行モードのMIDとHIGHのときは、ペダルを漕いでも、スロットルを回しても走行できます。



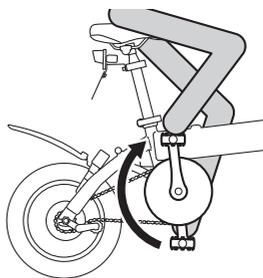
ECOモード走行

自転車のようにペダルを漕いで走行するモードです。モーターのアシストは無く、ペダルを漕ぐ力だけで進みます。

バッテリーの消費をなるべく抑えたい場合や、自転車のような運転を楽しみたい場合に選択してください。

📖 メモ

- ECOモードでの走行でも、パワーオンする必要があります。
- ECOモードでも保安部品の灯火類は作動します。
- 当製品は原動機付自転車です。ペダル走行モードでも、走行ルールは道路交通法の原動機付自転車の規定に従う必要があります。そのため右左折時はウィンカー操作が必要です。また、運転する際はヘルメットの着用と、運転免許証、自賠責保険証の携帯が必要です。



MID モード走行

ペダルを漕ぐ力をモーターでアシストして走行する「ハイブリッド走行」と、ペダルを漕がずスロットルを操作してモーターの力だけで走行する「電動バイク走行」ができます。

このモードは HIGH モードに比べモーター出力が小さくなっています。ペダルを漕ぐ力に対するアシスト力が小さく、モーターの力だけで走行する場合の MID モードの最高速度は 25 km/h です。

バッテリーの消費を抑えながら、ハイブリッド走行や電動バイク走行をしたい場合に選択してください。

メモ

- スロットルを操作しなくても、ペダルを漕ぐと自動的にモーターが駆動します。
- 走行中にブレーキレバーを握ると、自動的にモーター出力が停止します。
- より力強く走行したい場合や、より速く走行したいときには HIGH モードを選択してください。

HIGH モード走行

ペダルを漕ぐ力をモーターでアシストして走行する「ハイブリッド走行」と、ペダルを漕がずスロットルを操作してモーターの力だけで走行する「電動バイク走行」ができます。

このモードは MID モードに比べモーター出力が大きくなっています。ペダルを漕ぐ力に対するアシスト力が大きく、モーターの力だけで走行する場合の HIGH モードの最高速度は 30 km/h 以上です。

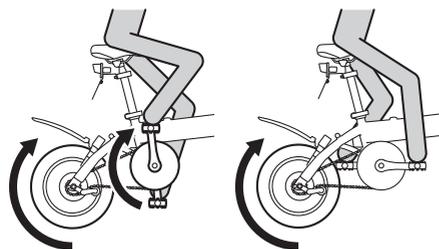
モーターの出力が最大で、ハイブリッド走行や電動バイク走行をしたい場合に選択してください。

警告

HIGH モードではモーターの出力が大きく、走り始めに力強く発進しますので、急発進にならないように注意して、ゆっくりと操作してください。

注意

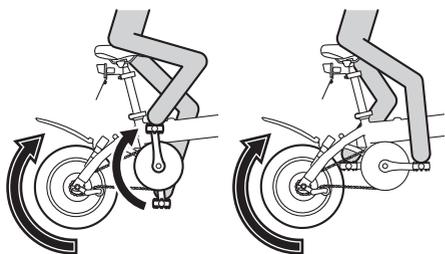
HIGH モードでは、ペダルをゆっくり漕いでも、スロットルをゆっくり回しても力強く発進しますので、注意してください。



運転

メモ

- スロットルを操作しなくても、ペダルを漕ぐと自動的にモーターが駆動します。
- 走行中にブレーキレバーを握ると、自動的にモーター出力が停止します。
- モーターの力があまり必要ない場合や、バッテリーの消費を抑えて走行したい場合は MID モードを選択してください。



ブレーキ

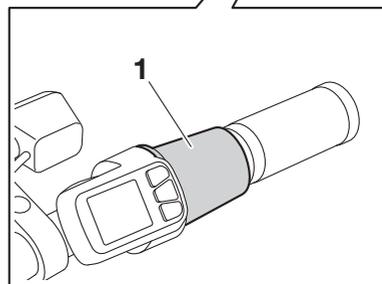
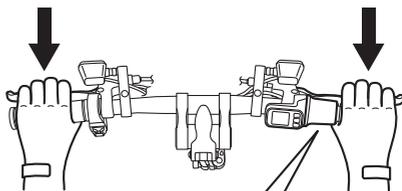
ブレーキは、スロットルを戻した状態で前輪(右側ブレーキレバー)と後輪(左側ブレーキレバー)を同時に使ってください。

警告

- ブレーキレバーを握るときにはスロットルから手を放してください。
- ブレーキパッドは消耗品です。ブレーキの利きが悪くなった場合には交換してください。

注意

- 急ブレーキは、タイヤをロックさせてしまい、転倒するなど安定性を損なうおそれがありますのでご注意ください。
- ブレーキをかけたままの運転はしないでください。ブレーキの温度が上昇し、制動力が減少し、効きが悪化し危険です。
- 走行中に急ブレーキにより急停止した場合、バッテリー保護のために車体がパワーオフすることがあります。1分経つと復帰します。



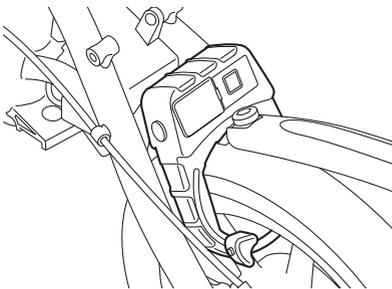
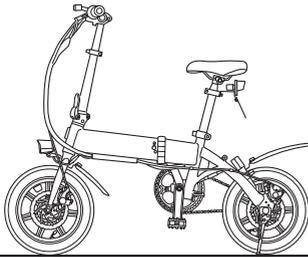
1 スロットル

駐輪

平坦な地面で、スタンドを下げて駐輪してください。また、盗難防止のためにも必ず施錠してください。

⚠ 注意

当製品は原動機付自転車です。駐輪する際は、駐車違反にならないよう、原付が駐輪可能なところへ駐輪してください。また、自転車専用駐輪場には駐輪できませんのでご注意ください。



車両の折り畳み・組み立て

車両の折り畳み

⚠ 注意

作業をする際は、くれぐれも手指をはさんだり、目にあたらないように注意してください。

- 1 車体からバッテリーの取り外しを推奨します。

⚠ 注意

バッテリーを取り付けたまま折り畳みをする場合は、バッテリー落下の恐れを防ぐ為、バッテリーキーで必ずバッテリーをロックしてください。

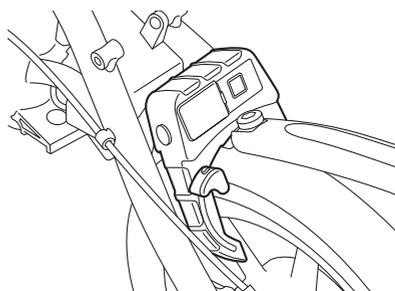
📖 メモ

バッテリーの取り外し方法は、28 ページの「バッテリーの取り外し」を参照。

- 2 YubiLock® (指紋認証鍵) を解錠します。

📖 メモ

YubiLock® (指紋認証鍵) の解錠は、24 ページの「YubiLock® (指紋認証鍵) の解錠」を参照。



- 3 インフォメーション・ディスプレイのパワースイッチでパワーオフします。

📖 メモ

車両を折り畳む際は、必ずパワーオフしてください。



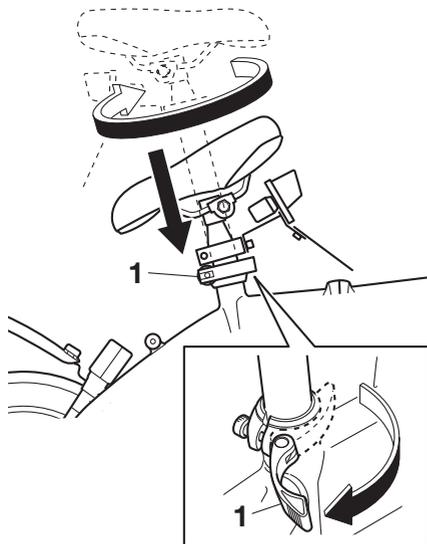
- 1 パワースイッチ

車両の折り畳み・組み立て

- 4 シートポストクランプを手前に引き、シート向きを後ろに向けて、シートを一番下まで下げます。

メモ

シート位置の変更後は、シートポストクランプを元の位置に戻してください。

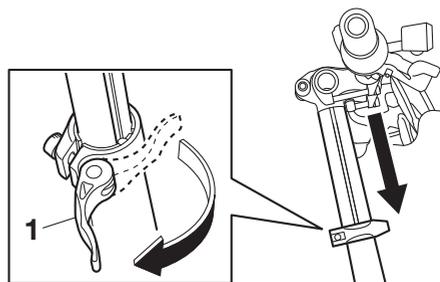


1 シートポストクランプ

- 5 ハンドル高さ調整レバーを手前に引き、ハンドルを一番下まで下げます。

メモ

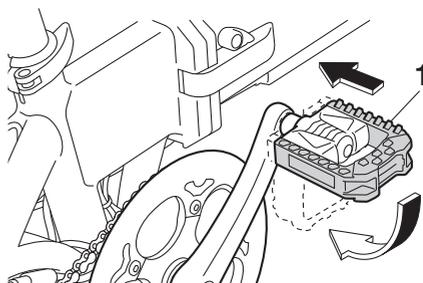
ハンドルの位置を変更後、ハンドル高さ調整レバーを元の位置に戻してください。



1 ハンドル高さ調整レバー

- 6 ミラーを折り畳みます。

- 7 ペダルを奥に押しながら折り畳みます。



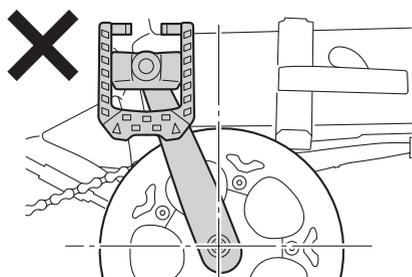
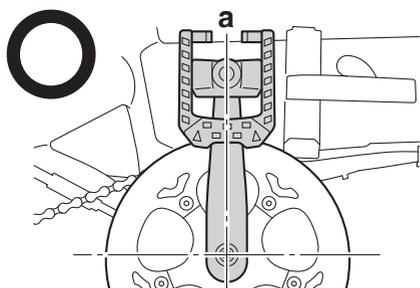
1 ペダル

車両の折り畳み・組み立て

8 右側のペダルを時計の針の 12 時の位置
置下図 “a” にします。

メモ

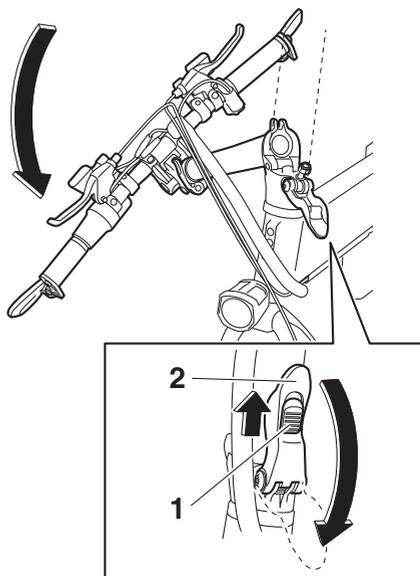
車両を折り畳む前に、必ずペダルの位置を
下図 “a” に調節してから、車両を折り畳ん
でください。ペダルの位置が正しくない場
合、ハンドルとペダルが干渉して正しく折
り畳むことができません。



9 ハンドル折り畳みレバーのスイッチを上
にスライドさせながら、ハンドル折り畳
みを手前に引き、ハンドルを車両右
側に折り畳みます。

メモ

- ハンドルを折り畳む際、ブレーキ線が引
かからないように気を付けてください。
- ハンドルを折り畳んだら、ハンドル折り
畳みレバーを元に戻します。



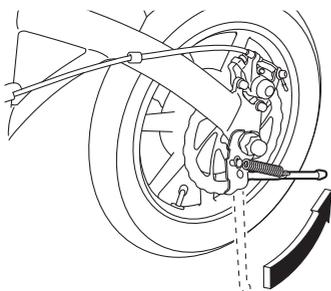
- 1 レバースイッチ
- 2 ハンドル折り畳みレバー

車両の折り畳み・組み立て

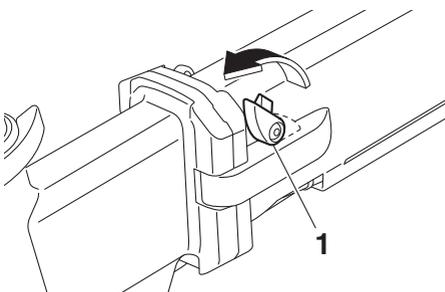
10 スタンドを足でけるなどして跳ね上げます。

メモ

スタンドを足でけるなどして跳ね上げると、車両は自立できなくなります。以下の手順では車両が倒れないように気を付けてください。

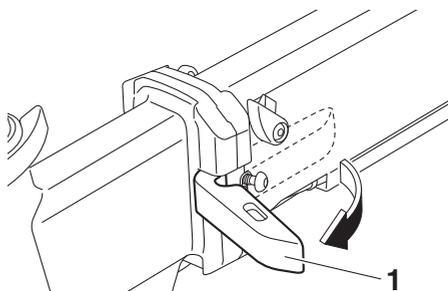


11 フレームロックを反時計回りに回します。

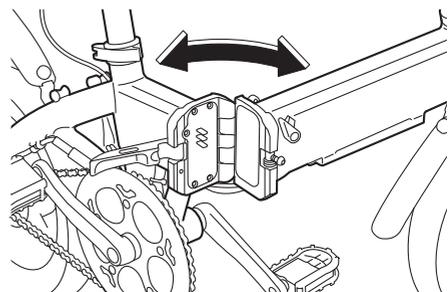


1 フレームロック

12 フレームロックレバーを手前に引き、フレームを車両左側が内側になるよう折り曲げます。

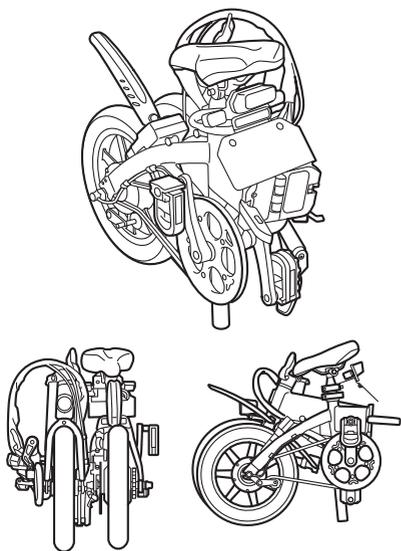


1 フレームロックレバー



車両の折り畳み・組み立て

13 以下を参照して折り畳み状態を確認します。



14 施錠して後輪をロックします。

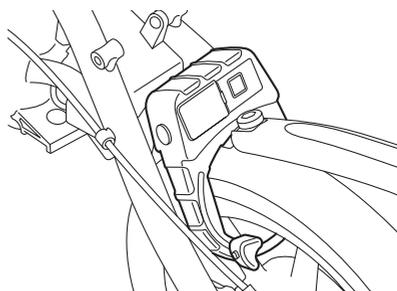
メモ

YubiLock® (指紋認証鍵) の施錠は、25ページ「YubiLock® (指紋認証鍵) の施錠」を参照。

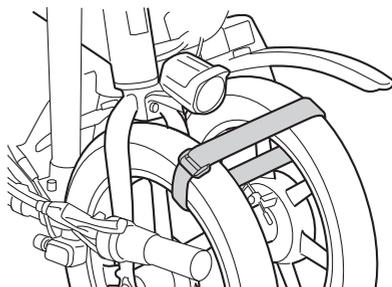
⚠ 注意

車両を折り畳んだときに、バッテリーが装着されていて、YubiLock® (指紋認証鍵) で後輪がロックされていない場合、車両を組み立てた際に自動的にパワーオンになります。

車両を折り畳んだ際は、盗難防止のために必ず YubiLock® (指紋認証鍵) で後輪をロックしてください。



15 必要があれば、付属の固定ベルトで前輪と後輪を留めます。



車両の折り畳み・組み立て

車両の組み立て

⚠ 注意

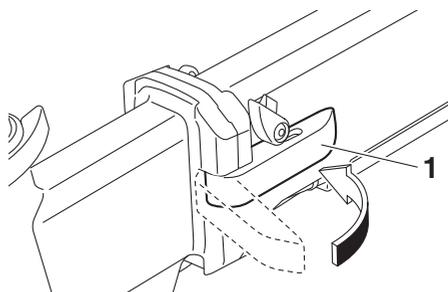
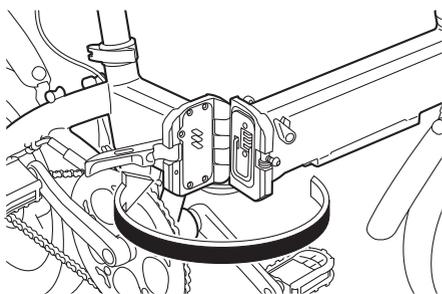
作業をする際は、くれぐれも手指をはさんだり、目にあたらないように注意してください。

- 1 バッテリーを取り外している場合は、バッテリーを取り付けます。

📖 メモ

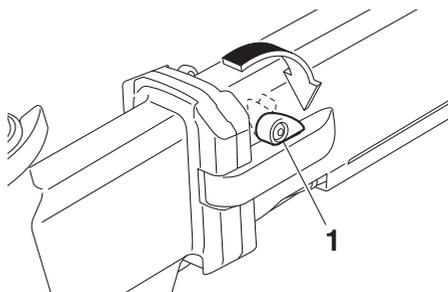
バッテリーの取り付けは、30 ページ「バッテリーの取り付け」を参照。

- 2 畳まれているフレームを伸ばし、フレームロックレバーでフレームを固定します。



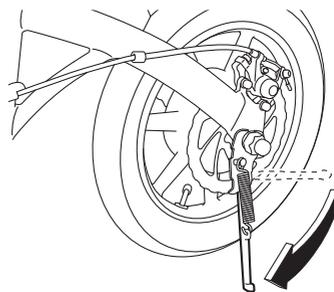
1 フレームロックレバー

- 3 フレームロックを時計回りに回してロックします。



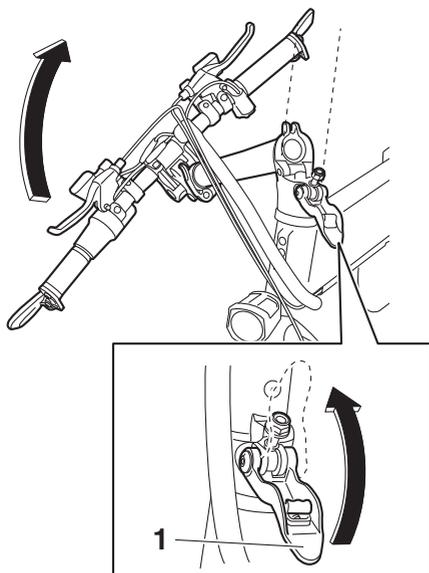
1 フレームロック

- 4 スタンドを下げて車両を自立させます。



車両の折り畳み・組み立て

- 5** ハンドル折畳レバーを手前に引き、ハンドルを立てます。その後ハンドル折畳レバーを元の位置に戻します。



1 ハンドル折畳レバー

- 6** 必要に応じて、ハンドルの角度を調整します。

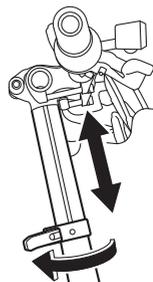
メモ

ハンドルの角度の調整は 37 ページの「ハンドルの角度の調整」を参照。

- 7** ハンドルの高さを調整します。

メモ

ハンドルの高さの調整は、36 ページ「ハンドルの高さの調整」を参照。



- 8** ミラーを元の位置に戻します。

車両の折り畳み・組み立て

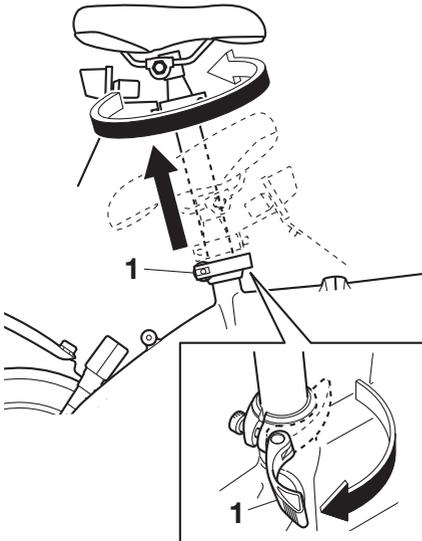
- 9 シートポストクランプを手前に引いて、シートの向きを前方側に向けます。その後、シートの高さを調整します。

⚠ 危険

シートの高さを、シートポストのMAX印の範囲を超えて固定すると、乗車中に破損する恐れがあります。必ずMAX印～MIN印の間で調整してください。

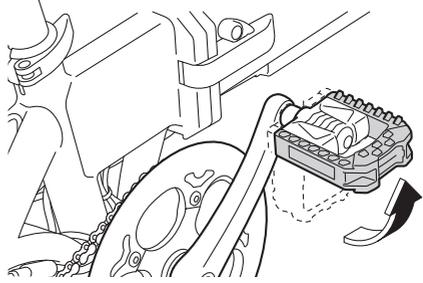
📖 メモ

- シートの向きを変える際、テールランプからの配線がシートポストに巻き付かないように注意してください。
- シートの高さの調整は、35ページ「シートの調整」を参照。



1 シートポストクランプ

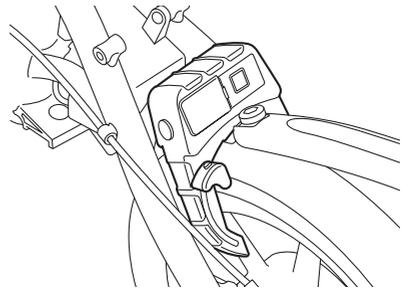
- 10 折り畳んでいる両側のペダルを元の位置に戻します。



- 11 YubiLock® (指紋認証鍵) でロックを解除します。

📖 メモ

ロックの解除方法は、24ページ「YubiLock® (指紋認証鍵) の解錠」を参照。



車両の折り畳み・組み立て

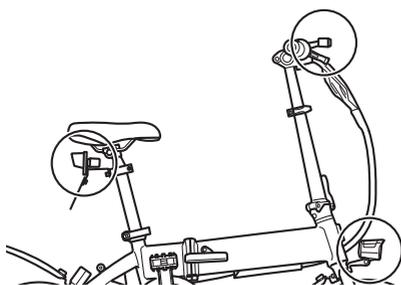
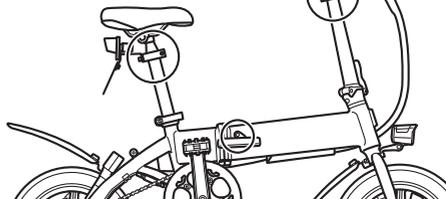
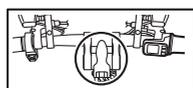
12 インフォメーション・ディスプレイ、ヘッドライト、ナンバーライト、テールランプの点灯を確認します。

メモ

- 点灯しない場合は、YubiLock®（指紋認証鍵）の解錠、バッテリーの取り付け、バッテリーの充電量、を確認してください。
- 走行前には運転前点検を行ってください。運転前点検の方法は、43 ページ「運転前点検」を参照。

⚠ 危険

組み立て後は、フレームロック、シートポストクランプ、ハンドル高さ調整レバー、ハンドル固定レバーが確実にロックされていることを確認してください。走行中にこれらが緩むと転倒のおそれがあり、大変危険です。



点検・整備について

安全に車両をお使いいただくためにも、点検・整備は欠かさないでください。

点検には、日常的な日常点検・運転前点検と定期点検があります。

安全にお使いいただくために、点検・整備は必ず実施してください。

警告

不適切な点検や整備、故障箇所の未修理は、事故等トラブルを発生させる原因となります。トラブルの結果、人の死亡、もしくは重傷を負う可能性があります。正しく点検・整備を実施してください。



*1: 日常点検の方法は、64 ページ「日常点検」を参照。

*2: 運転前点検の方法は、43 ページ「運転前点検」を参照。

*3: 洗車の方法は、69 ページ「洗車」を参照。

定期点検

定期点検は、車両使用者の管理責任で定期的に行う点検整備です。

定期点検には、新車購入時に行う「1ヶ月点検」・「6ヶ月点検」と、定期的に行う「12ヶ月点検」・「24ヶ月点検」があります。

定期点検は取扱店にご依頼ください。

点検・整備

日常点検

日常点検は、日頃車両を使用していく中で、ユーザーの皆様が自分自身で行う点検です。

⚠ 警告

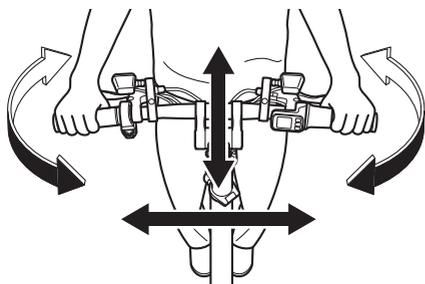
経年使用により、車両の各部が痛んだりネジが緩むことがあります。これらを放置して使用を続けると大変危険です。安全にご使用いただくために、乗車前に必ず点検を実施してください。

📖 メモ

点検をして、正常が確認できなかった場合は、取扱店にご相談ください。

ハンドルの点検

前輪を足で固定してハンドルを動かしたときに、力を入れてもハンドルが回ったり、抜けたりしないことを確認してください。

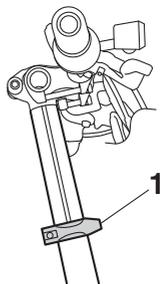


ハンドル高さ調整レバーの点検

ハンドル高さ調整レバーが確実に固定されていることを確認してください。

📖 メモ

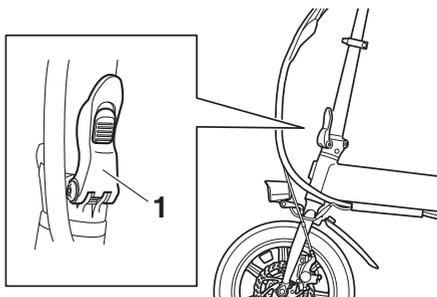
ハンドル高さ調整レバーが確実に固定されていない場合は、36 ページ「ハンドルの高さの調整」を参照して、ハンドル高さ調整レバーを調節してください。



1 ハンドル高さ調整レバー

ハンドル折畳レバーの点検

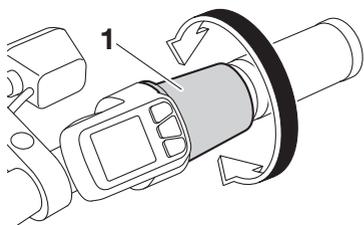
ハンドル折畳レバーがしっかりとロックされていることを確認してください。



1 ハンドル折畳レバー

スロットルの点検

車両がパワーオフの状態ですロットルを回したときに、スムーズに戻るか確認してください。



1 スロットル

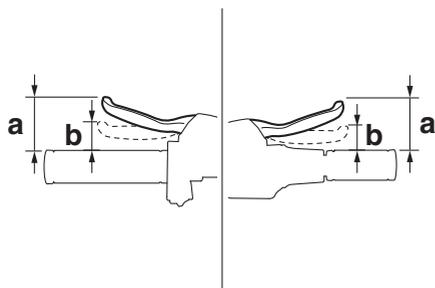
ブレーキレバーの点検

左右のブレーキレバーを強く握ったときに、グリップとレバーの隙間下図“a”が $1/2 \sim 1/3$ “b”になるまでに、ブレーキがロックすることを確認してください。



警告

ブレーキパッドは消耗品です。ブレーキの利きが悪くなった場合には交換してください。



ブレーキワイヤーの点検

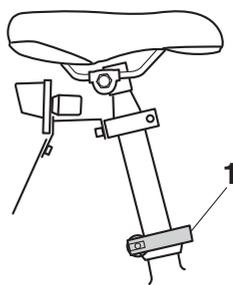
前後のブレーキのワイヤーに、サビや切れがないか確認してください。

シートポストクランプの点検

シートポストクランプが確実に固定されていることを確認してください。

メモ

シートポストクランプが確実に固定されていない場合は、35 ページ「シートの調整」を参照して、シートポストクランプを調節してください。



1 シートポストクランプ

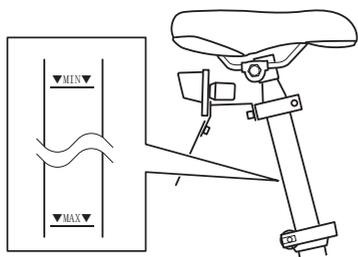
点検・整備

シートの点検

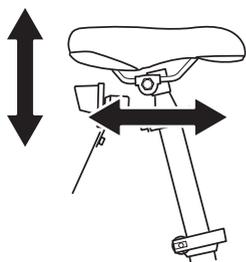
シートの高さが、シートポストの表示 (MAX、MIN) の範囲内になっていることを確認してください。

メモ

シートの高さが規定の位置になっていない場合は、35 ページ「シートの調整」を参照して、シートの高さを調節してください。

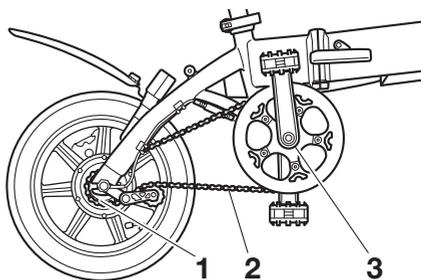


シートの前後を持って、上下・左右に動かしてください。力を入れても回ったり、抜けたりしないことを確認してください。



注油

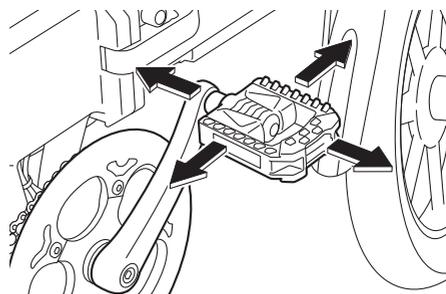
イラストで示す部分については、適宜金属潤滑剤を注油してください。
チェーンオイルが乾いている場合は注油してください。



- 1 リヤスプロケット
- 2 チェーン
- 3 クランク回転部

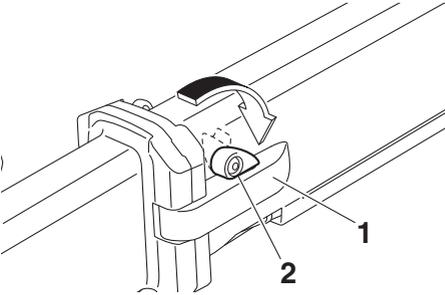
ペダルの点検

ペダルに、上下左右方向から力を加えたときにガタつきがないことを確認してください。



フレームの点検

フレームロックレバーのフレームロックがロックできるか確認してください。



- 1 フレームロックレバー
- 2 フレームロック

ハンドル、ハンドルポスト、フレーム、フロントフォーク等の構造部材に、著しい外傷やたわみなどがないか確認してください。これらの部材に破損が見受けられる場合はただちに使用を停止し、お近くの取扱店へご相談ください。

バッテリーの点検

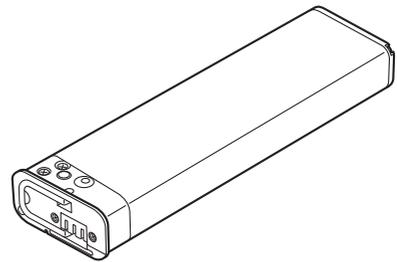
バッテリーは、自然放電します。車両を2週間以上ご使用にならない場合は、車両からバッテリーを取り外し、直射日光を避けて冷暗所で保管してください。

警告

バッテリー外装に破損があったり、凹みがあった場合は使用しないでください。

注意

- バッテリーは、車体に入れたまま長期放置すると、バッテリーの電圧が充電できないほど下がり、使用できなくなる恐れがあります。
- バッテリーは、車体から抜いた状態でも自然放電します。車体から抜いて保管する場合も、最低1ヶ月に一度は、補充電をしてください。



点検・整備

タイヤの点検

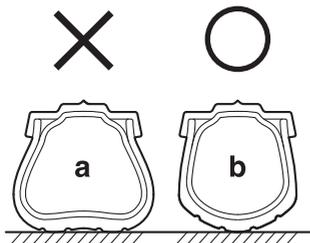
以下の現象が確認できたら、取扱店へ点検及び修理、交換等を依頼してください。

警告

- 空気圧が適正でないタイヤや、極度にすり減ったタイヤの使用は、転倒等、事故やトラブルを発生させる原因となり、死亡、もしくは重傷を負う可能性があります。
- 仕様のタイヤ寸法以外のタイヤを装着すると、操縦安定性に支障が発生し、転倒等、事故やトラブルを発生させる原因となり、死亡、もしくは重傷を負う可能性があります。必ず取扱店で指定のタイヤに交換してください。

空気圧の低下（タイヤがしぼんできた、地面への接地面がたるんできた、タイヤを押すと柔らかい等）

適正タイヤ空気圧
280～310 kPa (2.8～3.1 bar)

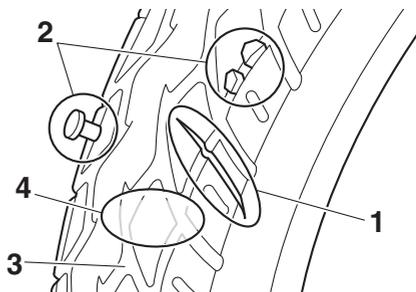


タイヤ断面図

- a 空気圧 不足
- b 空気圧 適正

メモ

- 空気圧は、時間が経過すると低下してきます。必ず点検してください。
- タイヤの空気圧調整は、米式バルブ対応で、空気圧計の付いた空気入れ（コンプレッサー）を使用してください。
- 空気圧は、適正空気圧を目安に、お使いの空気入れのゲージ単位に合わせてご確認ください。



- 1 亀裂や損傷がある
- 2 異物がある
- 3 溝が 1 mm 以下となっている
- 4 偏摩耗している

洗車

車両は通常に走行しているだけでも汚れます。

雨天時では、泥などが付着し、さらに汚れてしまいます。

また、雨水以外に海辺付近では、潮風などにより塩分が付着することがあります。冬季は路面に散布された凍結防止剤などにより、錆が発生することがあります。車両を長持ちさせるためにも、走行後はこれらを除去するため、こまめに洗車をしてください。

車両は防水構造になっていますが、完全防水ではありません。

車両に水をかける際は、多量の水を集中的にかけるようなことはしないでください。洗車後は、ウエス等乾いた布で水分を拭き取ってください。

洗車後にブレーキが濡れている場合、降雨時と同様でブレーキの効きが悪くなりますので、運転する際は、ブレーキを十分に乾燥させてからご使用ください。

警告

- 高圧洗車機は使用しないでください。
- 洗車前にバッテリーを取り外し、水に濡れない場所に保管してください。
- シート下に設置した証明書携行用ケースを取り外し、水に濡れない場所に保管してください。
- フレームの下から上には水をかけないでください。水をかける際、水は上からかけるようにしてください。

各部位の交換

ブレーキパッド、タイヤ等の消耗品、ヘッドライト、ウィンカー、テールランプなど各部位の交換は、それぞれ GFR-02 の専用用品のため、取扱店にてお買い求めと交換ができます。

つきましては、取扱店にお問い合わせをお願いいたします。

トラブルシューティング

「故障かな?」と思ったら、まずは以下をご確認ください。改善しない場合、わからない場合は、取扱店へご相談ください。

YubiLock® (指紋認証鍵) が作動しない

YubiLock® (指紋認証鍵) 本体のバッテリー切れの可能性があります。

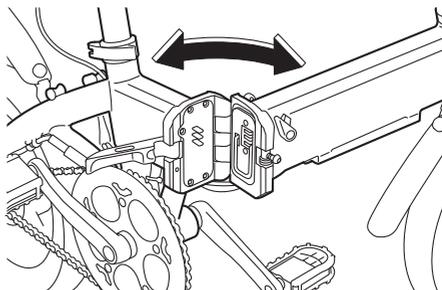
市販の micro USB ケーブルを YubiLock® (指紋認証鍵) 本体に接続し、充電をしてください (充電時間: 約 3 時間)

メモ

- YubiLock® (指紋認証鍵) の充電方法は、26 ページ [YubiLock® (指紋認証鍵) の充電] を参照。
- 車台本体のバッテリーと YubiLock® (指紋認証鍵) は別バッテリーとなっています。
- YubiLock® (指紋認証鍵) に充電ができない場合や充電しても作動しない場合は、YubiLock® 解錠キーを使用して解錠してください。YubiLock® 解錠キーを使用した解錠方法は、27 ページ「YubiLock® 解錠キー」を参照。

インフォメーション・ディスプレイがオンにならない

- YubiLock® (指紋認証鍵) が解錠していることを確認してください。
- YubiLock® (指紋認証鍵) が解錠していない場合、インフォメーションパワースイッチでのオン/オフはできません。
- インフォメーション・ディスプレイのパワースイッチを長押ししてください
- フレームの折り畳み部を、一旦折り畳み、その後元に戻してください。



- バッテリーが充電されていることを確認してください。
- バッテリーが確実に取り付けられていることを確認してください。

トラブルシューティング

出力が弱い、速度が遅い

- バッテリー残量表示が 1 個の状態、走行モードが MID か HIGH になっていないか確認してください。走行モードが MID か HIGH になっていた場合は ECO モードに切り替え、充電してください。
- バッテリー残量表示が 1 個の状態、表示が点滅していないか確認してください。表示が点滅している場合はバッテリーを充電してください。
- バッテリーの充電時間が長くなったり、満充電しても走行距離が短くなっていないか確認してください。バッテリーの充電時間が長くなったり、満充電しても走行距離が短くなっている場合は、取扱店で新品をご購入し、お取り替えください。

メモ

急な上り坂や厳寒な環境では、バッテリーが通常の状態でも能力が低下し、モーター出力や速度が落ちます。

充電時間が長くなった

バッテリーが消耗しています。公式サイト、または取扱店で新品をご購入し、お取り替えください。

満充電しても、走行距離が短くなった

バッテリーが消耗しています。公式サイト、または取扱店で新品をご購入し、お取り替えください。

パンクした

装着しているタイヤは、電動バイク用のチューブタイヤです。取扱店でパンク修理を依頼してください。

バッテリーが充電されない

バッテリーを長期間（1 ヶ月以上）使用しないまま放置した場合、完全放電してしまうことがあります。完全放電してしまったバッテリーは、そのままでは走行にご利用いただけません。

バッテリーを車両から外して、充電器を接続すると、回復充電を行います。この間、充電器のインディケーター LED ランプは緑色に点灯または点滅します。回復充電が完了するとインディケーター LED ランプは赤色に点灯し、通常の充電が開始されます（回復充電には最大 30 時間程度かかる場合があります）。

運搬・保管・廃棄

運搬

運搬する際は、折り畳んだ状態でフレームを持って運搬してください。

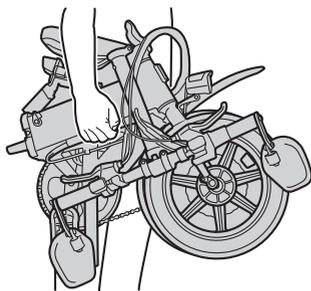
警告

運搬時、バッテリー落下の恐れを防ぐ為、バッテリーキーで必ずバッテリーをロックしてください。鍵の閉め忘れにご注意ください。

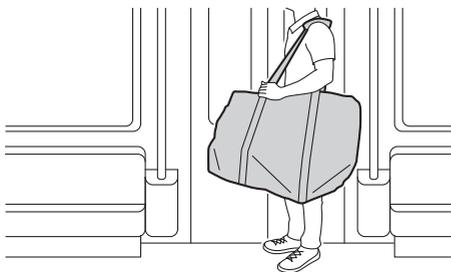
自動車で運搬する際は、自動車で運搬する際は、車両が動かないように自動車へ確実に固定してください。

メモ

本車両のバッテリーは航空機には持ち込めません。



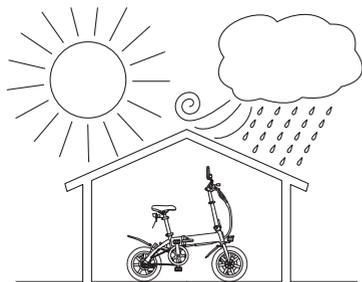
電車やバスに持ち込む場合は、ケースや輸送バッグなどに入れて、車両が露出しないようにしてください。そして周囲の人に当たらないよう十分な配慮をしてください。また、ご乗車される交通機関に事前に問い合わせをし、持込について確認してください。



保管

保管する際は、盗難やいたずらなどされないよう安全な場所に保管してください。
また、下記のような保管に適した場所をお勧めします。

- 平坦なところ
- 風雨にさらされないところ
- 風通しのよいところ
- 湿気のないところ
- 直射日光が当たらないところ



屋外で保管される場合は、雨水などから保護するため、カバーなどを掛けてください。



車両を2週間以上ご使用にならない場合は、車両からバッテリーを取り外し、直射日光を避けて冷暗所で保管してください。

⚠ 注意

- バッテリーは、車体に入れたまま長期放置すると、バッテリーの電圧が充電できないほど下がり、使用できなくなる恐れがあります。
- バッテリーは、車体から抜いた状態でも自然放電します。車体から抜いて保管する場合も、最低1ヶ月に一度は、充電をしてください。

廃棄

廃棄する際は、取扱店もしくは最寄の「廃棄二輪車取扱店」にお問い合わせください。またバッテリーは、リチウムイオン電池です。資源有効利用促進法によりリサイクルが義務づけられているため適切に処理してください。

環境保護のためにも、むやみに捨てないでください。

ご不要になりました GFR 専用バッテリーの無償回収（送料はお客様負担）を行っております。

詳細はヘルプセンター (<https://support.glafit.com/hc/ja>) をご参照ください。

メモ

「廃棄二輪車取扱店」とは、廃棄二輪車を適正に処理することができる二輪車取扱店です。

廃棄物処理指定店として登録されている取扱店で、一般社団法人全国軽自動車協会連合会に登録している取扱店です。

廃棄二輪車取扱店票が店頭に掲出されています。



仕様

車両型式	GFR-02
全長	1280 mm
全幅	535 mm
全高	1040 mm
軸間距離	900 mm
車両重量	19.4 kg (バッテリー装着時)
電動走行距離	約 34 km (条件により大きく異なります) ※ ¹
出力	0.25 kW
最高速度	30 km/h 以上 ※ ²
バッテリー種類	リチウムイオンバッテリー
バッテリー電圧	36 V
バッテリー容量	9.6 Ah
充電時間	約 2 ~ 3 時間
駆動方式 (自転車モード)	チェーン
駆動方式 (モーター)	インホイールモーター
タイヤサイズ (前輪・後輪)	14 × 2.125
適正空気圧 (目安)	280 ~ 310 kPa (2.8 ~ 3.1 bar) ※ ³
制動装置形式	ディスクブレーキ
乗車定員	1 名

※ 1： 走行パターン (MID モード時の場合)：テスト走行環境 (定値定速走行を想定)
荷重 50 kg で、平地を速度 25 km/h で走行してから停止するまでの距離。

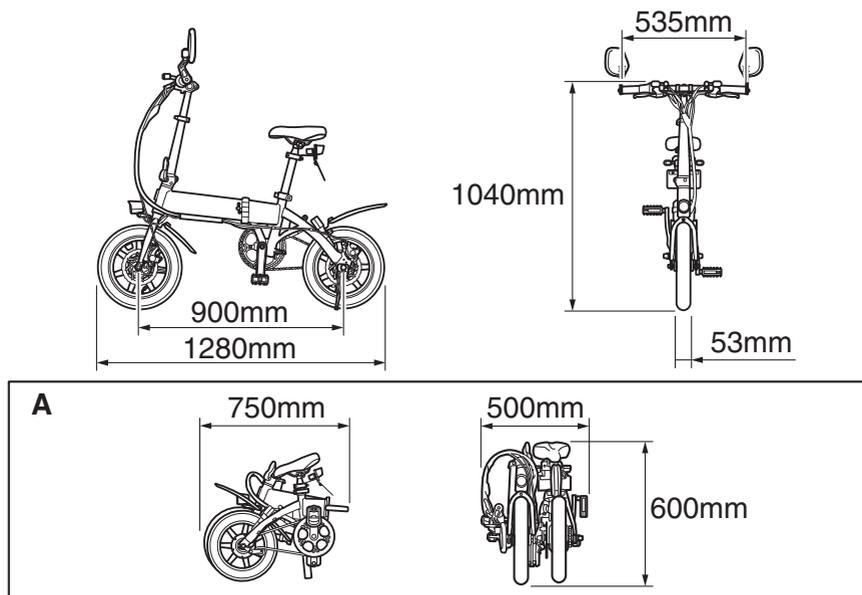
電動アシスト自転車とは異なり、モーター駆動のみで走行する為、荷重・風向き・勾配・発進/停止の頻度などにより走行距離は上記パターンよりも著しく低下する場合がございます。

※ 2： バッテリー満充電での平地走行時。バッテリー残量や荷重等により最高速度は低下します。

※ 3： お使いの空気入れのゲージ単位に合わせて、空気圧を確認してください。

車両情報

車両寸法

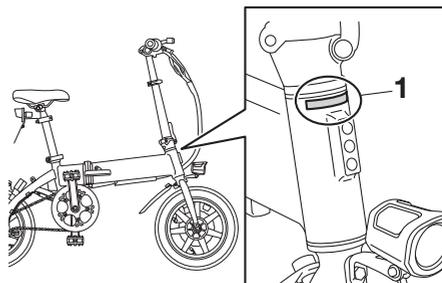


メモ

- “A” は折り畳み時の寸法です。
- 記載の寸法は目安となります。

車台番号打刻位置

車台番号はナンバーの登録や保険の加入などに使用します。



1 車台番号

い		充電器	34
インフォメーション・ディスプレイ	16	充電時間が長くなった	71
インフォメーション・ディスプレイが オンにならない	70	出力が弱い、速度が遅い	71
う		仕様	75
ウィンカースイッチ（方向指示器）	39	乗車	47
後面	10	証明書携行用ケースの取り付け	13
雨天の運転	5	初期設定	21
運転免許証を携帯	12	す	
運搬	72	スタンド	42
え		スロットル	40
ECOモード走行	50	スロットルの点検	65
お		せ	
オドメーター	18	洗車	69
オドメーター（1000 km 以上）	18	前面	9
か		前輪ブレーキレバー	39
各部品の交換	69	そ	
こ		走行	48
後輪ブレーキレバー	40	走行時	42
固定ベルト	58	走行モード切替ボタン	19
さ		走行モード表示	19
サイドミラー	40	操作パネル	21
サイドミラーの調節	40	速度表示	19
サイドミラーの取り付け	13	た	
し		タイヤの点検	68
シート	35	ち	
シートの調整	35	駐車時	42
シートの点検	66	注油	66
シートポストクランプの点検	65	駐輪	53
自賠責保険への加入	12	て	
車台番号打刻位置	76	定期点検	63
車両寸法	76	点検・整備について	63
車両の折り畳み	54	と	
車両の組み立て	59	登録指紋リセット	24
		特徴	1

索引

トリップメーター…………… 18

な

ナンバープレートの登録…………… 12

に

日常点検…………… 64

は

廃棄…………… 74

HIGH モード走行…………… 51

バッテリー…………… 28

バッテリーが充電されない…………… 71

バッテリー残量表示目安…………… 20

バッテリーの起動…………… 14

バッテリーの充電…………… 32

バッテリーの充電
(バッテリー単体での充電)…………… 30

バッテリー電圧表示…………… 19

バッテリーの点検…………… 67

バッテリーの取り扱い…………… 28

バッテリーの取り付け…………… 30

バッテリーの取り外し…………… 28

パワーオフ状態での点検…………… 43

パワーオン状態での点検…………… 45

パワースイッチ…………… 17

パンクした…………… 71

ハンドル…………… 11,36

ハンドル折畳レバーの点検…………… 64

ハンドル高さ調整レバーの点検…………… 64

ハンドルの角度の調整…………… 37

ハンドルの高さの調整…………… 36

ハンドルの点検…………… 64

ひ

左側面…………… 8

表示切替ボタン…………… 17

ふ

ブレーキ…………… 52

ブレーキレバーの点検…………… 65

ブレーキワイヤーの点検…………… 65

フレームの点検…………… 67

へ

ペダル…………… 41

ペダルの点検…………… 66

ヘッドライト…………… 38

ヘルメットを用意…………… 12

ほ

ホーン…………… 38

ホーンボタン…………… 39

保管…………… 73

ま

満充電しても、走行距離が短くなった… 71

み

右側面…………… 7

MID モード走行…………… 51

ゆ

YubiLock[®] 解除キー…………… 27

YubiLock[®] (指紋認証鍵)…………… 20

YubiLock[®] (指紋認証鍵) が
作動しない…………… 70

YubiLock[®] (指紋認証鍵) の
初期設定…………… 15

YubiLock[®] (指紋認証鍵) の解錠…………… 24

YubiLock[®] (指紋認証鍵) の充電…………… 26

YubiLock[®] (指紋認証鍵) の施錠…………… 25

お問い合わせ

製品について、よくあるお問い合わせは以下からご確認ください。

ヘルプセンター <https://support.glafit.com/hc/ja>

製品に関するお問い合わせは、まず、お近くの取扱店へご相談ください。
お近くの取扱店で解決できない場合は、下記窓口にお問い合わせください。

glafit 株式会社 (グラフィット)

カスタマーサポートメール support@glafit.com

公式サイト <https://glafit.com>

glafit®